

立命館大学 大学院案内

2016



G R A D U A T E
S C H O O L S 2 0 1 6
R I T S U M E I K A N U N I V E R S I T Y

ごあいさつ

立命館大学大学院は、1950年に新制大学院として開設以来、学術研究成果の創出と人材育成を通じた社会貢献を使命とし、60年余の歴史と伝統を築いてまいりました。今日、複数の分野の研究者が領域横断的に連携し、新たな学術領域の創生と次世代を担う若手研究者の育成に取り組み、様々な分野において数多くの研究者や技術者が世界を舞台に活躍しています。

立命館大学には、優れた教員と個性溢れる学生・大学院生が世界中から集い、多様な価値観を有する人々と協働し、新しいことを生み出し、自らを高めていく環境があります。グローバル社会が直面する数多くの課題解決に向け、比類なき挑戦する意欲と知的好奇心に溢れるみなさんのご入学をお待ちしています。



立命館総長・立命館大学長
吉田 美喜夫

《目次》

巻頭インタビュー	03	言語教育情報研究科	28
私のキャリアパス	04	先端総合学術研究科	30
データで見る立命館の研究力	06	経済学研究科	32
研究機構・研究所・研究センター	07	スポーツ健康科学研究科	34
キャンパス展開	08	理工学研究科	36
大学院生のキャリアパス形成支援	10	情報理工学研究科	38
大学院学費(2015年度)	12	生命科学研究科	40
奨学金・支援制度の概要	13	薬学研究科	42
大学院概要	15	法科大学院[法務研究科]	44
法学研究科	16	公共政策大学院[公務研究科]	46
社会学研究科	18	経営学研究科	48
国際関係研究科	20	政策科学研究科	50
文学研究科	22	テクノロジー・マネジメント研究科	52
映像研究科	24	経営大学院[経営管理研究科]	54
応用人間科学研究科	26	各キャンパスへのアクセス	56

[巻頭インタビュー]

高度な研究力と人材育成。立命館大学大学院の魅力はここにある。

大学院生にとって立命館大学大学院で学ぶ魅力とは何でしょうか？立命館大学副学長の渡辺公三先生にその魅力を語っていただきました。



立命館大学大学院の強みはどこにあるのでしょうか。近年、科研費採択数・金額において全国私大でトップクラス、過去にはGCOEに採択され、また最近COIにも選ばれた実績は注目されますが。

一般的に大学院の魅力は文系・理系問わず、大学の研究力に直結していると思います。本学では試行錯誤を繰り返しながら研究力強化に努めてきました。先生方がそれぞれにプロジェクトを立ち上げて、お互いにピアレビューをしながら研究を展開し、科研費等の外部資金を獲得しながらまた新たに展開していくというサイクルが出来てきています。その結果、科研費採択は私立大学としては金額で3位、件数で4位となりました。トップの大学との隔たりはまだまだ大きいにしても、基礎的な研究力が確実についてきている一つの指標といえるのではと思いますので、こうした研究力の高い環境で学べるというのは大きな魅力ではないでしょうか。

また、従来から理系では、先生のリーダーシップのもとでプロジェクト型の研究が進められており、その中で大学院生も鍛えられていくというベースが出来ています。一方、本学では人社会系においても、チーム・プロジェクト型の研究を進めていくために、ある意味実験的な取り組みも行っており、人文・社会の大学院教育の一つの方法として確立しつつあります。この点も本学大学院の強みと言えるのではないかと考えています。

大学院生がプロジェクト型の研究に参加することのメリットはどこにあるのでしょうか。

基本的に研究というのは自分のテーマを見つけて進めていくことが大前提としてあると思いますが、ある程度の共通の枠組み中で別の視点をもつ人たちが共に学んでいくことができるということはメリットとして大きいと思います。また普段から、複数の人たちが近い場所で一定の目的をもって研究していることで、読書会や勉強会を作って自分たちで勉強の幅を

広げていく様子も見られるようになるのではないかと期待しています。

では、立命館大学大学院が抱える課題はありますか。

大学院修了後に希望する教育研究職に就けるのか、という課題はあります。だからこそ、研究者としてステップアップしていく姿をロールモデルとして示すことのできる大学院であるべきだと思っています。課題はありますが、そのための取り組みとして、本学では大学院キャリアパス推進室を設置し、大学院生のスキルアップを支援するための様々な取り組みを始めています。また、将来研究者でありつつ教育に携わることを見据え、大学院生に教育の現場にコミットできる機会を作っていきたいと考えています。大学院生でいることの魅力を単に研究を深めるだけではない、そんな大学院でありたいと思います。

いま、大学院生には何が求められているのでしょうか。

自分自身の大学院時代を振り返っても、将来の見えない不安は大きかったように思います。その不安と日々闘いつつ、自分の問題意識をどのように育てていくのか。大学院で学ぶということは、このようなチャレンジ精神をもってどこまで自分と闘えるのかという意志がないと持続できないと思います。自分の専門分野を深めると同時に他の分野にも生き生きとした関心を保ち続けることも必要だと思っています。

他分野へ関心を持ち続けるためにはどのようにすればよいでしょうか。

研究に取り組むひとりひとりの研究者はそれぞれが世界と出会う「現場」にいるのだと思います。批評家の加藤典洋さんという方に『君と世界との戦いでは、世界に支援せよ』という素敵な題の本があり、カフカの言葉だそうです。アーティストもそうだと思いますが研究者も、先生であると院生であるを問わず、世界と戦っていて、しかも世界に支援している。その現場の背後に広がる世界を想像しつつ研究を続けるには、役に立ちそうな道具はすべて試さなければなりません。だからあらゆる分野への関心をめざめさせておかねばならないと思います。

最後に、本学大学院を目指す方へのメッセージをお願いします。

大学院に進学するか否かに関わらず、学部生の間に、是非この問題は解いてみたいという課題を見つけてください。そして、もしその問いが大学院に行かないと解けそうにない、と思ったときに本学へ来てください。一方、問いの背景を自分で確かめたいと思ったら一度社会へ出て、また大学院に戻ってくるということも一つの方法です。何事にも遅すぎることはありません。ぜひ、本学の大学院でチャレンジしてください。

若手教員に聞く [私のキャリアパス]

立命館大学の若手教員に大学院生時代を振り返ってもらい、現在に至る道のりやこれから大学院進学を目指す方へのメッセージを語っていただきました。



1 現在までの経歴

積極的に国際学会発表を

社会開発についてもっと学びたい、研究したいという思いから、修士課程、博士課程に進学しました。博士課程在籍中に、RA(リサーチ・アシスタント)として文化遺産防災のプロジェクトに関わり、コミュニティの社会開発が文化遺産の防災につながることを学びました。また、文化遺産を守るには、その遺産だけではなく、まわりのコミュニティをも含めて守らなくてはならないことも学び、これが自分の研究テーマにもなりました。

大学院生時代は、積極的に学会での発表をしました。国内だけに留まり「井の中の蛙」にならないように、日本以外で開催される国際会議の場での発表もこなしました。これには2つの大きな目的がありました。一つは、日本国内の研究の流れだけではなく、世界の研究の流れを知ること、そしてもう一つは、防災の研究が進んでいるといわれる日本の研究や自分の研究を広く海外の研究者に知ってもらうことです。海外での国際会議参加には、立命館大学の学内補助金(国外学会発表補助)制度を目一杯利用していました。大学院生にとってこの補助金制度はとてありがたいものだと思います。学生みなさんも、もっと積極的に学内の補助金制度を利用して、研究者としての力を身につけることに役立ててもらいたいですね。

博士号取得後はリサーチ・アシスタントを継続しながら、大学教員募集等の公募にも積極的に応募していました。東日本大震災の後、政策科学部で防災担当の募集があったことがきっかけで、自分の研究していることに直結している職を得ることができました。

2 大学院生時代を振り返って 研究や就職につながる ネットワークづくりを

大学院生時代は、さきほども述べたように、学会での発表を積極的に行っていました。学会発表をすることで、自分の研究を広く知ってもらうことができます。そして、他の研究者と知り合うこともできます。研究会活動といったものは特には行っていませんでしたが、同じ研究室の先輩や後輩との共同研究をしていました。そこで築いた関係は、かつて非常勤の職を得たきっかけにもなり、教員になってからも続いています。非常勤講師はすべて先輩からの紹介で得ることができました。そして、自分が現在の専任の職に就いた際には、研究室の同僚などに引き継ぎました。常勤、非常勤を問わず、職を得るきっかけになったのは、人とのネットワークでした。自分から意識してネットワークを作り、広げて行くことが、将来、希望の職に就ききっかけにもなると思いますね。

大学院生時代を振り返ると、やりたかったが実現できなかったことがいくつかあります。まずは、留学経験です。高校時代は苦手だった英語は、学部時代から授業などを通じてまじめに取り組み、少しずつ力をつけていきました。修士時代は、自分が所属していたゼミに留学生がいたこともあり、英語と日本語の両方で会話をしたり発表したりすることに慣れることができました。しかし、自分の英語力はまだまだだと感じています。留学がすべてを解決するわけではありませんが、海外での経験が英語力を高めるだけではなく、研究にもっと広がりを持たせることにつながると思います。教員になってからよりも、まとまった時間を比較的とりやすい大学院生時代に、留学を経験することもいいと思いますね。

それから、自由に使える時間をもっと読書にあてておきたかったです。自分の研究に関するものはたくさん読みましたが、幅広い分野の本を読むことの大切さを感じます。博士号を取得する前に、さまざまな分野の基礎的なことを網羅することで、就職活動にも活かせるのではないかと思います。

3 メッセージ 学内の補助金制度の 積極的活用を

現在、大学院生を見ていて思うのは、ある意味、失敗しても甘めに見てもらえるこの時期をもっと上手に使ってほしいということです。特に、学会での発表に対して尻込みする学生が多いですね。躊躇する気持ちももちろん理解できます。しかし、挑戦

する以前に、失敗に不安を持ってしまっているようです。立命館大学は学内の補助金がとても充実しています。自分も大学院生時代に活用して、発表する力や度胸をつけてきました。現役大学院生みなさんも、こういった制度を積極的に活用して、挑戦して欲しいと思います。発表は「慣れ」も大きく関わるので、ぜひ一度やってみて、と言いたいですね。



1 現在までの経歴

人との出会いで道は開ける!

音響、聴覚、音声を縦断する音研究拠点を構築したい!という夢を立命館大学にて叶えることができました。博士前期課程時代から音関連に特化して研究を行い、現在では学生40名を抱える大研究室を主宰しております。

振り返ると、この道(大学業界)に進むには人との出会いが大きいと感じます。博士後期課程2年生頃までは、博士取得後は民間のシンクタンク分野への就職を考えており、大学のような教育分野に進むことは頭の片隅にもありませんでした。しかし、学会で私と思考が似ていると感じた他大学の先生との出会いで、私の進路は大きく変わりました。人を育てる意味や人と共に考える楽しさを私自身全く知らずに生きてきたあと痛感しました。それからは、人を育てそして人と共に考える大学教員の魅力を深く知るために、同分野だけでなく他分野の教員らも含めていろいろな先生方に持っている将来ビジョンや考えなどたくさんお話をさせて頂きました。初心の頃と教員生活14年目の現在とで基本的には考え方は変わっていないと思いますが、いざ大学教員になると理想と現実のギャップは大きく、学生指導などで悩むことも多々ありました。しかしながら人を育てる意味や人と共に考える楽しさを常に意識しながら、これまでいろいろな壁を乗り越え、教授を拝命するに至りました。自分の狭い考えだけで人生終わってしまうのでは、非常にもったいないと思います。いろいろな人と話すことで、自分の考えは無限に広がります。その広い選択肢の中で自分に最適な道を選ぶ楽しさを多くの人に味わってほしいなと思います。

2 大学院生時代を振り返って

先輩や後輩とのコミュニケーションを 通して組織を学ぼう!

大学院生時代は、いろいろな人々と話す機会を大切にしてきました。中でも「研究以外の雑談」が大切だと感じていました。理系の大学院生は必ず研究室という組織に所属します。その小さい組織の中で円滑に物事を進めるためには日々のコミュニケーションは必要不可欠です。特に理系の研究者にとって、研究室という「組織」を学ばない限り成功するのは難しいでしょう。気のあう同僚だけと話せても組織の中での役割は果たせません。スタッフや先輩・後輩と分け隔てなくコミュニケーションをとることで、先輩からは信頼され、後輩からは慕われる存在になれます。これは自分のためでもあります。研究室という組織のためでもあります。自分の研究だけやっていたら評価されるというのは大きな誤解であり、周囲にも気を配りながら自分の活躍できるフィールドの土台をしっかりと作っておく必要があります。これは立命館大学の研究室でもずっと心がけています。

3 メッセージ

考える習慣を身につけて、行動しよう!

私が指導している範囲では、研究室に配属された学生の学力やポテンシャルは、それほど差がありません。しかし、学習意欲(マインド)には大きな差があります。大学教員の使命は、学生が学びたいような場や機会を提供することだと考えています。とりわけ、私の研究室では、学生に国内外の学会での発表の機会をどんどん与えています。学外にどんどん出ていくことで他大学の学生と交流し、大きな刺激を受けることができます。その結果、「また学会に行きたい」「もっと研究してみんなを驚かせたい」というようなポジティブな学習意欲(マインド)の醸成に繋がり、さらに研究室内で、「なぜやらないの?」「やらないなら私が2倍やってもいい?」という正の連鎖へとつながります。強い学習意欲(マインド)を持つ学生に適切な環境を与えることは、教員として非常にやりがいも感じますし、自分自身もその輪の中で向上できるのではと強く感じています。しかし、それでもやはり、日本人学生は、積極性や前へ前へと出る気持ちが薄いと感じます。特に国際会議に行くと、能力的に差がなくても積極性という点では、欧米はおろか中韓にも劣っています。たとえば、ポスター発表の際に、その発表に興味を持った研究者がポスターに近づいてきても、中韓の学生は積極的に自分の研究をアピールしますが、日本人学生の場合、まるで自分のポスターではないかのような表情で逃げて行く学生を目にすることがあります。前に出てアピールしようとする気持ちがないのでしょうか。学生らしさ、学ぶ意欲というものをもう一度見つめ直してほしいと思いますね。ぜひ、「自分は何のためにやっているのか」ということをよく考えて行動して欲しいと思います。

データで見る立命館の研究力

文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」に採択

文部科学省が10年後の社会を見据えて設定した3つのテーマ「少子高齢化先進国としての持続性確保」「豊かな生活環境の構築(繁栄と尊敬される国へ)」「活気ある持続可能な社会の構築」に対するチャレンジング・ハイリスクな研究開発に最長9年間、拠点あたり年間1億～10億円程度の支援を行うプロジェクト「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM) 拠点」(以下COI)事業に、立命館大学が研究リーダーを務める「運動を生活カルチャー化する健康イノベーション」拠点が昇格しました。関西の私立大学では初の採択となります。

COI事業は平成25年度に、190件の申請から、12のCOI拠点と14のトライアル拠点を選定してスタートし、トライアル拠点の中から可能性の高い拠点をCOI拠点到昇格させる方針が示されていました。本学においても、2件のプログラムがトライアルとして採択されており、2年間のトライアル期間を経て実績が評価された結果、1件が本採用となりました。

「運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール拠点」は、立命館大学のほか、東洋紡(株)やオムロンハ

ルスケア(株)など8つの企業・研究機関と順天堂大学を中心としたサテライト拠点による連合チームで形成しています。同拠点では、少子高齢化の日本における「持続可能な社会実現モデル」の構築を目指し、世界に最先端モデルを発信します。

具体的にはスマートウェアテクノロジーによる肌着の開発を行い、運動の生活カルチャー化を実現させ、近接コミュニケーション・ツールとなる空間シェアリング技術開発につなげ、「スポーツ健康コミュニティ」を創造し、サテライト拠点とともに生活習慣病予防にも繋がっていきます。

本学では、持続可能な社会の実現のために解決が急務である地球規模の課題に焦点を絞り、学内から公募した研究事業に対して集中的に自己資金を投入し発展させることを目的とした研究機構「R-GIRO (Ritsumeikan Innovation Research Organization)」を2008年度に発足させ、様々なプロジェクトに取り組んできました。今回のCOI採択において、本学の政策的・組織的な取組みによる研究成果が、日本の革新的イノベーションとして評価されることとなりました。

科学研究費助成事業—科研費—

立命館大学は、「平成26年度科学研究費助成事業—科研費—の配分」において、採択金額ランキング・採択件数ランキングともに、全国26位。私立大学では、採択金額ランキングにおいて3位(西日本私大1位)、採択件数ランキング4位(西日本私大1位)となりました。平成26年度の採択件数は平成20年度比で約1.6倍となり、研究力量を大きく向上させ、多様な研究への取り組みを進めています。

科研費ランキング

採択金額	採択件数
1位 慶應義塾大学	1位 慶應義塾大学
2位 早稲田大学	2位 早稲田大学
3位 立命館大学	3位 日本大学
4位 日本大学	4位 立命館大学
5位 順天堂大学	5位 順天堂大学
6位 東京理科大学	6位 東海大学
7位 近畿大学	7位 近畿大学
8位 東海大学	8位 東京理科大学
9位 同志社大学	9位 北里大学
10位 明治大学	10位 明治大学

※平成26年度採択金額・件数(いずれも新規+継続)私立大学のみ

■細目別採択件数上位10機関(過去5年の新規採択の累計数)での本学順位
※文部科学省報道発表「平成26年度科研費(補助金分+基金分)の配布について」(2014年10月10日)より抜粋

【全国1位:3項目】※国立公立含む
人文地理学、経営学、社会学

【私大1位:15項目】※全国1位の項目を除く
(旧)計算機システム・ネットワーク、(旧)知覚情報処理・知能ロボティクス、マルチメディア・データベース、高性能計算、情報セキュリティ、ヒューマンインターフェース・インタラクション、生命・健康・医療情報、図書館情報学・人文社会情報学、環境社会システム、(旧)環境影響評価・環境政策、地理学、ジェンダー、哲学・倫理学、思想史、ナノマイクロシステム

(注)(旧)が付いている細目名は平成25年度分野細目の改正に伴って、大幅に見直された細目であり、平成22年度～24年度までの3年間の累計数により件数を算出している。



※平成26年度(2014年度)科学研究費助成事業(科研費)のうち、特別推進研究、基盤研究(S、A、B、C)、挑戦的萌芽研究、若手研究(A、B)、新学術領域研究、特定領域研究、研究活動スタート支援、特別研究者奨励費

研究機構・研究所・研究センター

立命館大学では、研究機構による最先端の取り組みが展開されています。その成果は社会貢献のために活用されるとともに、大学院の研究・教育に還元され、高度な研究につながっています。人文・社会・自然科学各領域の研究を推進するために多彩な研究機

立命館グローバル・イノベーション研究機構[R-GIRO]

R-GIROは、学長直轄の研究組織で、「政策的重点課題の特化した研究拠点の形成」および「次世代を担う若手研究者の育成の強化」を目的に2008年に設立されました。自然共生型社会の実現に向け、自然科学分野と人文・社会科学分野との融合を図り、学際的研究活動を促進することで、価値ある研究成果を創出し、その成果の積極的発信により、次世代社会への貢献を果たすことを目的としています。

衣笠総合研究機構

衣笠総合研究機構は、1998年に設置され、研究所・研究センターをマネジメントする研究機構として研究活動を支えています。「自主」「民主」「公開」「平和利用」といった4つの原則のもと、人類の福祉と社会の進歩に貢献し、社会の要請に応えることを目的としています。



アート・リサーチセンター

- 人文科学研究所
- 国際地域研究所
- 国際言語文化研究所
- 人間科学研究所
- アート・リサーチセンター
- 歴史都市防災研究所
- 白川静記念東洋文字文化研究所
- コリア研究センター
- 金融・法・税務研究センター
- 生存学研究センター
- 間文化現象学研究センター
- ゲーム研究センター
- 立命館サステイナビリティ学
研究センター
- 環太平洋文明研究センター
- 加藤周一現代思想研究センター

OIC総合研究機構

OICの教学コンセプト「アジアのゲートウェイ」「地域・社会連携」「都市共創」をふまえ、グローバルに通用する人材の育成、新たなイノベーションの創出、地域コミュニティの中核的存在としてその機能を果たす研究機構を目指し、活動することを目的としています。

- 地域情報研究所
- 医療経営研究センター
- グローバルMOT研究センター
- イノベーション・マネジメント研究センター
- デザイン科学研究センター

構を設置し、2015年には、新たに大阪いばらきキャンパスにもOIC総合研究機構が誕生しました。40の研究所・センターで、基礎から応用まで幅広い活動を展開しています。また、国や地方公共団体、産業界との研究交流にも積極的に取り組み、成果を社会に還元しています。

BKC社系研究機構

BKC社系研究機構は、経済学部・経営学部のBKC移転にあわせて、ビジネス系分野での研究活動を推進するために1998年に設置されました。エコノミクス、マネジメント、テクノロジーを融合した研究の推進を行い、より社会的なつながりを持った研究を進めることを目的としています。

- 社会システム研究所
- 研究センター群
- ファイナンス研究センター
- 国際食文化研究センター

総合科学技術研究機構

総合科学技術研究機構は、科学技術の発展と地域社会に貢献するために1994年に「総合理工学研究機構」として設置されました(2012年度より、現名称に改称)。産学官の共同研究の推進を通して、科学技術の発展と地域社会に貢献することを目的としています。



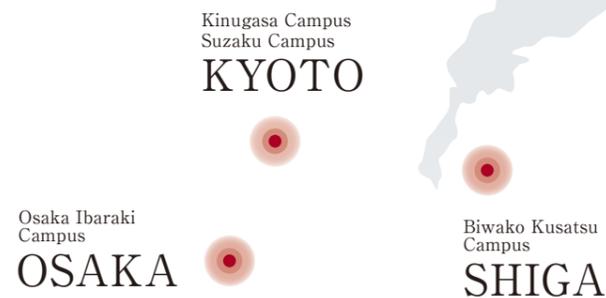
SRセンター

- 理工学研究所
- SRセンター
- VLSIセンター
- 研究センター群
- エコ・テクノロジー研究センター
- バイオシミュレーション研究センター
- 防災フロンティア研究センター
- バイオメディカルデバイス研究センター
- 琵琶湖21研究センター
- 先端マイクロ・ナノシステム技術研究センター
- 創薬科学研究センター
- スポーツ健康科学研究センター
- ロボティクス研究センター
- エネルギーイノベーション材料研究センター
- 古気候学研究センター
- ソフト・ハード融合機能材料研究センター
- 先端ICTメディカル・ヘルスケア研究センター
- システム視覚科学研究センター

地域に根ざし、世界と協働する 教育・研究を支える4つのキャンパス

21世紀の社会が求めるグローバル人材育成のためには、新しい教育プログラム、研究環境の充実が必要となります。国際社会で広く活躍できる人材をこれまで以上に育てていくための新たな環境づくりの一つとして、2015年4月に「大阪いばらきキャンパス」を開設しました。京都、滋賀、大阪というそれぞれに特色あるエリアにキャンパスを設置することで、キャンパス間で相互連携を図り、広く知識と情報の共有を可能にしていきます。

また、びわこ・くさつキャンパスにおいては理工系の新研究棟、衣笠キャンパスにおいては新図書館や新しい大学院施設等の建設も進み、これまで以上に教育・研究の環境充実と高度化を進めていきます。



大阪／大阪いばらきキャンパス

商都・大阪で教育・研究のフィールドをアジアへと広げるキャンパス

大阪いばらきキャンパス(OIC)は、「アジアのゲートウェイ」として国際的な学びの拠点に位置づけるとともに、「商都・大阪」という地域性を活かして、地域・社会と連携した教育・研究を進化させていきます。

経営学研究科・政策科学研究科・テクノロジー・マネジメント研究科・
経営大学院(経営管理研究科)

サテライトキャンパス 大阪梅田キャンパス

**大阪・梅田駅前に位置する、
アクセス至便のキャンパス**

社会的ネットワークの強化や就職支援に加え、学びの拠点として大学院の授業を展開。多目的に利用できる最新設備を備えています。

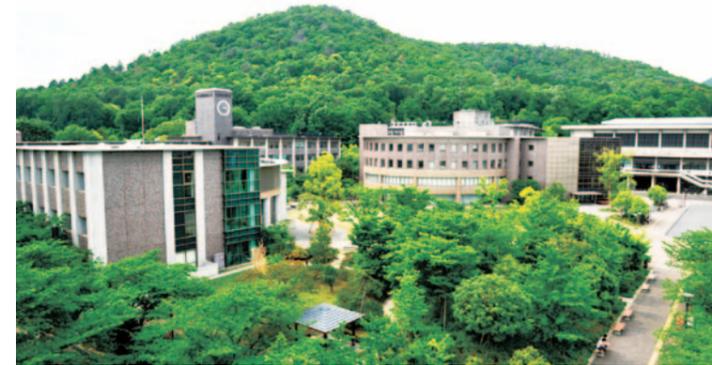
言語教育情報研究科・
テクノロジー・マネジメント研究科・
経営大学院(経営管理研究科)

京都／衣笠キャンパス

**古都・京都の歴史と文化が息づく、
多様な人文社系研究科が集まるキャンパス**

古くから日本の中心として、長く厚みのある歴史をもち、多くの文化遺産に囲まれた地、京都。その中でも、古都の名利に囲まれた閑静なエリアに位置し、日本の伝統や文化に触れながら先端の研究を世界へ発信する、伝統と創生のキャンパス。

法学研究科・社会学研究科・国際関係研究科・文学研究科・
映像研究科・応用人間科学研究科・言語教育情報研究科・
先端総合学術研究科



京都／朱雀キャンパス

**京都の歴史・文化と、都市の利便性・
充実の研究設備をあわせもつキャンパス**

専門職大学院を抱え、多様な研究スタイルに応える充実した研究設備や自習環境を備えています。古都・京都の中心部に位置し、京都の歴史・文化に触れながら、都市型キャンパスの利便性をあわせもつキャンパス。

法科大学院(法務研究科)・公共政策大学院(公務研究科)



滋賀／びわこ・くさつキャンパス

**豊かな自然を活かし、国際水準の教育・研究環境を
備えた文理融合型キャンパス**

私立大学最大級の理系教育・研究施設を備えるびわこ・くさつキャンパス(BKC)は、琵琶湖を含む大自然や、企業の研究施設が近くに位置する立地を活かした研究活動を実施しています。世界標準の教育研究、知見、技術を創出し、世界・地域へ発信するイノベティブ・キャンパス。

経済学研究科・スポーツ健康科学研究科・理工学研究科・
情報理工学研究科・生命科学研究科・薬学研究科



さらなる教育・研究の環境充実と高度化に向けて



※2015年3月現在の予定であり、変更となる場合があります。
イメージは計画段階のものです。

衣笠キャンパス
平井嘉一郎記念図書館
※2016年4月 利用開始予定



衣笠キャンパス
究論館

「研究科を超えた学び」の環境を実現するため、新しい大学院施設を建設しました。グループでのディスカッション、共同研究、研究成果の発信・共有などができる院生のためのスペースとしてリサーチcommonsを設置しています。 ※2015年4月 利用開始



びわこ・くさつキャンパス
トリシア

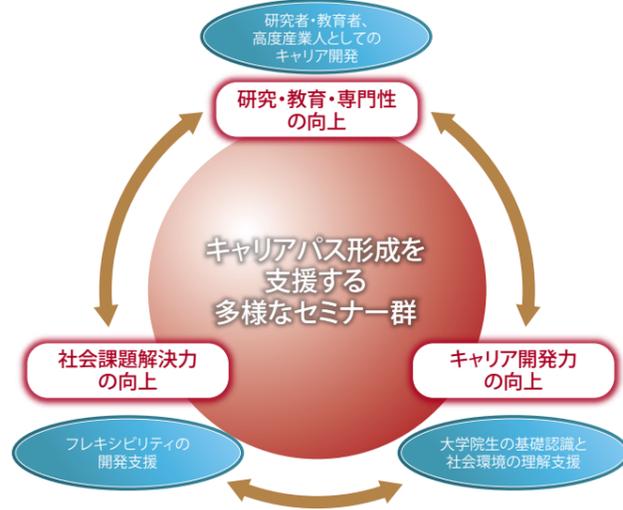
主に理工学部の環境都市系3学科の研究施設です。学生同士や教員との多様なコミュニケーションを創出する工夫として、各階に「ラボカフェ」を配置し、研究室前の廊下を活用した「ティーチングcommons」を配置しています。 ※2014年4月 利用開始

大学院生のキャリアパス形成を支援する

立命館大学大学院では、大学院修了後に多様な分野で活躍できる人材を育成するための支援制度を用意しています。自らの専門分野の研究を進めながら、これらの支援制度を活用することで、大学院修了後の目標とするキャリアの実現を目指します。

大学院キャリアパス支援プログラム

目標とするキャリアを実現するためには、大学院での専門分野の研究を追求し、その過程で習得した知識や能力を多様な分野で活用できることが大切です。このプログラムでは、研究活動を通じて身につけた知識や能力を多様な分野で活かせるように、英語のライティングスキルやプレゼンテーション力のような汎用的スキル、キャリアパス形成に必要な基礎知識や現状に関する理解を深めるためのセミナーを提供するプログラムです。



開催セミナー	
研究者・教育者、高度産業人としてのキャリア開発支援	
研究者・教育者をめざすうえで必要となる研究業績の獲得や教育スキルの向上を支援するためのセミナーや、産業界で博士研究者に求められる知識や技能を実務経験者から学ぶセミナーを開講します。	
テーマ	概要
Preparing Future Faculty (大学教員準備)	授業の設計方法やシラバスの書き方、評価の方法等、大学教員の基礎的なスキルの習得を目指します。
博士人材リーダー養成講座	博士を取り巻く現状、プロジェクト推進力、キャリアプランニング、グローバル動向など、高度産業人に求められる知能や技能を第一線で活躍してきた実務経験者から実例を通して学びます。
研究資金獲得	研究資金の獲得に向けた申請書の書き方や押さえておかなければならないポイントについて理解を深めます。
研究会の企画とマネジメント	研究会を企画し、円滑に運営するための方法や、研究会の運営に必要な能力について理解を深めます。

大学院生の基礎認識と社会環境の理解支援
博士課程修了者、博士号取得者を取り巻く就職環境への理解など、大学院生が現在置かれている社会的状況を客観的に認識し、研究者・教育者として不可欠な基礎的な認識について学ぶセミナーを開講します。

テーマ	概要
研究者の基礎知識	「研究」とは何か、「研究者」とは何か、「業績」とは何か、という大学院生が理解しておくべき基礎概念について理解を深めます。
修士のためのキャリアとモチベーション	M1を対象に就職活動や修士論文執筆に向けてモチベーションアップを目指します。

フレキシビリティの開発支援
正課で培った専門知識や分析技術などの専門性を社会における問題解決やキャリアパスの開発に転用できることを大学院生が認識し、それらの専門性の円滑な転用と水準の向上を支援するセミナーを開講します。

テーマ	概要
学術基礎英語	英語で論文・学会発表を行うにあたって必要とされる学術英語運用能力の獲得を目指します。
Academic Writing	アカデミックライティングの基本的技能を全般的・網羅的に習得し、質の高い論文を執筆できるスキルの習得を目指します。
ポスター・デザイン	秀逸なデザインで参加者の耳目を引くことができるポスターを作成するスキルの習得を目指します。
プレゼンテーション・デザイン	プレゼンテーションを魅力的にデザインできるスキルの習得を目指します。

開催セミナーのテーマ・内容は年度により変更する場合があります。

キャリアパス支援プログラムについての詳細は

博士人材リーダー養成プログラム

博士人材リーダー養成プログラムは、主に自然科学系研究科の博士課程後期課程の学生を対象に、将来産業界で活躍できる人材を育成するための1年間のプログラムです。今、社会では高度に専門性を持ち、かつ、自ら課題を見出して解決できるリーダーが求められています。本プログラムは、産学官と連携を図りながら、社会の発展に貢献できるグローバルリーダーたる「立命館の博士」を輩出するプログラムです。

プログラムは、多様な専門分野の博士学生同士で行う「分野横断型グループワーク」を中心に、高度産業人に求められる知識や技能を実務経験者から学ぶ「博士人材リーダー養成講座」、グループワークの成果および自身の研究内容を企業等にプレゼンテーションする「発表会」から成り、自ら課題を見出し、問題解決を実践していく中で、独創性のある問題解決能力を養います。

分野横断型グループワーク

他研究科の受講生とグループになり、1年間を通じて1つのテーマについてグループワークを行います。各グループで自主的なミーティングを持ち、調査・分析、学外調査、企業訪問などを通して、テーマの肉付けと深掘りを進めます。状況に応じてコーディネーターが、方向修正や導き、指摘などを行います。博士人材同士で切磋琢磨することにより、自分自身の成長を促し、トップレベルのリーダーとしてのスキル・能力を身に付けることを目指します。

多様な専門分野のメンバーからなるグループ

- スポーツ 理工 生命
- 理工 情理 理工 薬学

コーディネーター
フォロー
定期的なミーティング
テーマ 調査
ブラッシュアップ

博士人材リーダー養成講座

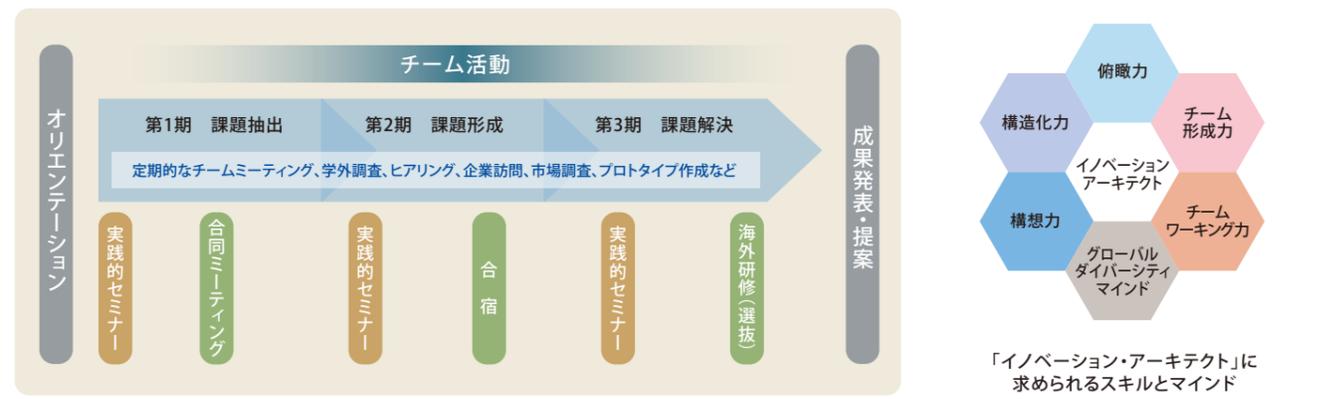
多様な分野で活躍する博士や、第一線で活躍してきた実務経験者を招いた講義を受講し、求められている博士人材像や、博士人材の多様な可能性、社会で活躍するために必要とされるスキル・能力を学びます。

最終発表会・博士研究発表会

分野横断型グループワークの最終締めくくりとして、1年間の成果を企業の担当者、本学の教員や学生の前で発表します。また、研究内容を分野外の人へ分かり易く説明するスキルを磨く博士研究発表会も開催されます。

文部科学省グローバルアントレプレナー育成促進事業 イノベーション・アーキテクト養成プログラム (EDGE+R)

「イノベーション・アーキテクト養成プログラム」(EDGE+R)は、学内外の分野を横断した多様な受講生からなる「チーム」で事業創造を目指すPBLを主活動とする正課外プログラムです。他者とともに、新たな価値創造(イノベーション創出)の面白さを体感する中で、課題を創造・実行・達成する為に必要なマインドとスキルを実践的に身につけることを目指します。



「イノベーション・アーキテクト」に求められるスキルとマインド

Graduate+Rプログラム

大学院修了者が社会の多様な場面で活躍するには、「課題発見・解決力」「コミュニケーション力」「情報発信力」「専門分野以外の幅広い知識」などが求められています。このプログラムでは、課題の「Graduate+Rゼミナール」と「大学院キャリアパス支援プログラム」、正課の「Graduate+R科目群」が連携し、このような知識やスキルを開発することで、大学院終了後のキャリア探求力の養成を目指します。

学費およびその他納付金(2015年度)

[入学金] 2015年度入学者実績

区分	名称	金額
入学、転入学	入学金	300,000

※以下に該当する本学園出身者からは、入学金を徴収しません。

- ①本大学または立命館アジア太平洋大学の学部を卒業した者が、本大学院に入学する場合
- ②本大学または立命館アジア太平洋大学の学部から引き続き本大学院に入学する場合
- ③本大学または立命館アジア太平洋大学の大学院を修了した者または博士課程に標準修業年限以上在学し、学則に定める履修要件を満たした者で博士学位を取得せずに退学した者が本大学院に入学する場合

[大学院授業料] 2015年度入学者実績

※社会的な情勢の急激な変化等、やむを得ない状況への対処として授業料の変更を行うことがあります。

①修士課程・区分制博士課程

①修士課程・博士課程前期課程

所属	名称	1年次		2年次
		本学園出身者 ^{※1}	他大学出身者 ^{※2}	
法学研究科、経済学研究科、経営学研究科	授業料	942,000	782,000	942,000
社会学研究科	授業料	956,000	796,000	942,000
文学研究科人文学専攻	授業料	1,084,000	924,000	1,084,000
文学研究科行動文化情報学専攻	授業料	1,104,800	944,800	1,104,800
応用人間科学研究科	授業料	1,135,000	975,000	1,135,000
国際関係研究科、政策科学研究科	授業料	1,130,000	970,000	1,130,000
公務研究科	授業料	1,130,000	970,000	1,130,000
	1年修了コース	授業料	1,695,000	1,535,000
言語教育情報研究科	授業料	1,084,000	924,000	1,084,000
理工学研究科、情報理工学研究科、生命科学研究科	授業料	1,548,000	1,388,000	1,548,000
テクノロジー・マネジメント研究科	授業料	1,478,000	1,318,000	1,478,000
スポーツ健康科学研究科	授業料	1,178,000	1,018,000	1,178,000
映像研究科	授業料	1,799,000	1,639,000	1,799,000

②博士課程後期課程

所属	名称	1年次	2年次	3年次
全研究科	授業料	500,000	500,000	500,000

②一貫制博士課程

所属	名称	1年次		2年次
		本学園出身者 ^{※1}	他大学出身者 ^{※2}	
先端総合学術研究科	授業料	1,130,000	970,000	1,130,000
	名称	3年次	4年次	5年次
	授業料	500,000	500,000	500,000

③4年制博士課程

所属	名称	1年次	2年次	3年次	4年次
薬学研究科	授業料	500,000	500,000	500,000	500,000

④専門職学位課程

所属	名称	1年次	2年次	3年次
法務研究科 ^{※3}	授業料	1,275,000	1,275,000	1,275,000

所属	名称	1年次	2年次
		固定授業料	122,000
経営管理研究科	単位授業料	48,000(1単位につき)	

※1 本学園出身者とは、以下に該当する者をいいます。

- ①本大学または立命館アジア太平洋大学の学部を卒業した者が、本大学院に入学する場合
- ②本大学または立命館アジア太平洋大学の学部から引き続き本大学院に入学する場合
- ③本大学または立命館アジア太平洋大学の大学院を修了した者または博士課程に標準修業年限以上在学し、学則に定める履修要件を満たした者で博士学位を取得せずに退学した者が本大学院に入学する場合

※2 他大学出身者については、初年度の負担をできるだけ低く抑えるため、1年次前期授業料において新入生特別減免を行っています。(上表の1年次授業料は減免後の金額を記載しています。)

※3 法務研究科においては、前期授業料の納入にあわせて情報通信費(20,000円)を毎年次納入していただきます。

【諸会費】 諸会費は学費とあわせて、入学年度に徴収しています。詳細については、入学試験要項を参照してください。

立命館大学大学院の充実した奨学金・支援制度

立命館大学大学院の奨学金・支援制度は、豊かな大学院生活をサポートする育英・研究奨励型と経済支援型の奨学金制度および国際的な研究活動や学会発表をサポートする大学院キャリア形成のための支援制度の二本柱でなっています。それぞれの奨学金・支援制度が、大学院における学修・研究のさまざまな局面で有効なサポートとなっています。本学独自の奨学金制度は、全国トップクラスの規模と内容を有し、一部を除き全て給付制(返還不要)です。さらに、本学以外の公的機関や民間団体が奨学金の給付や貸与を行っています。本学を通して募集を行う団体のほか、直接応募の研究助成・奨学金制度も多く存在しています。

※詳細については、入学試験要項、本学ホームページ、それぞれの制度の募集要項等を参照してください。 [立命館 大学院奨学金](#) [検索](#)

■修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程(1・2年次)、専門職学位課程対象

名称	趣旨	対象	金額	実績
大学院進学奨励奨学金	研究科が定める入試方式による合格者のうち、入試成績の優秀な者に対して給付	修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程1年次在学者	奨励A(40~90万円) 奨励B(20~36万円) (授業料に充当する)	431人 (在学者の) (45.1%)
大学院学内進学予約採用型奨学金	本学大学院への進学を希望しているにもかかわらず、経済的困難を抱え、進学が困難な本学学部生を支援するための経済支援型奨学金	修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程(1~2年次)、専門職学位課程在学者(募集は本学学部在籍中、但し、薬学研究科への進学予定者及び外国人留学生は除く。)	年40万円	73人 (2013年度)
大学院育英奨学金	1年次の学修・研究活動、今後のキャリアを見据えた学修・研究活動を評価する育英A・Bと、博士課程後期課程(一貫制博士課程3年次・4年制博士課程)への進学希望者で優秀な者に給付する後期課程進学奨励からなる育英型奨学金	修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程2年次在学者	育英A(40~90万円) 育英B(20~36万円) 後期課程進学奨励 ◎所属研究科の2年次の授業料(1年間分)から50万円を差引いた額(実質授業料負担額が50万円となる額)	395人 (在学者の) (41.5%)
大学院博士課程前期課程学生会補助金	学会に参加・発表を行う者を対象として、交通費および学会登録料・参加費について補助	修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程(1・2年次)在学者	国内学会参加補助(1万円上限) 国内学会発表補助(3万円上限) 国外学会発表補助(10万円上限)	延べ475人 (2013年度)
大学院博士課程前期課程研究実践活動補助金	研究科の人材育成目的および学位授与、教育課程編成・実施、入学者受け入れの方針にもとづき研究科が実施する国内外の研究実践プログラム参加者を援助	修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程(1・2年次)在学者	国内研究実践(1.5~3万円) 国外研究実践(2~20万円)	172人 (2013年度)
大学院生家計急変奨学金	家計の急変により授業料の納入が困難となった学生を対象とした奨学金(外国人留学生を除く)	修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程(1~2年次)、専門職学位課程在学者	セメスター授業料を上限とし、他の奨学金により授業料の減免を受けている場合は、セメスター授業料との差額を給付	0人 (2013年度)

※「大学院学内進学予約採用型奨学金」および「大学院生家計急変奨学金」は2016年度から内容が変更になる可能性がありますので、HPをご確認ください。

■博士課程後期課程、一貫制博士課程(3年次以上)、4年制博士課程対象

名称	趣旨	対象	金額	実績
大学院博士課程後期課程研究奨励奨学金	優秀な研究業績を有する者を援助することにより、研究活動を奨励する S給付は、日本学術振興会特別研究員採用者・面接選考対象者を対象 A・B給付は、各研究科の教育研究上の目的に照らして優れた研究業績を有する者またはあげることが期待できる者を対象	博士課程後期課程、一貫制博士課程(3年次以上)、4年制博士課程在学者	S給付(授業料相当額) A給付(授業料相当額) B給付(授業料の1/2相当額)	138人 (在学者の) (27.8%)
大学院博士課程後期課程国際的研究活動促進研究費	本学若手研究者の国際的な研究活動を促進・支援	博士課程後期課程、一貫制博士課程(3年次以上)、4年制博士課程在学者	研究助成金(10~30万円)および海外渡航に要する交通費	37人
大学院博士課程後期課程学生会発表補助金	学会での研究成果発表を行う者を対象として、交通費および学会登録料・参加費について補助	博士課程後期課程、一貫制博士課程(3年次以上)、4年制博士課程在学者	国内学会発表補助(3万円上限) 国外学会発表補助(10万円上限)	延べ240人 (2013年度)

■専門職学位課程《法科大学院(法務研究科)》のみ対象

名称	支援の概要等
法科大学院奨励奨学金(S奨学金)	法学既修者を対象に、入学試験の成績により選考し、入学金を除く学費相当額を1年間支給。法学未修者は、在学1年目の成績によっては2年目からの2年間支給あり。
法科大学院奨励奨学金(A奨学金)	入学試験の成績により選考し、入学金を除く学費相当額を1年間支給。在学後も、在学成績で選考する同様の制度あり。
法科大学院奨励奨学金(B奨学金)	入学試験の成績により選考し、60万円を1年間支給。在学後も、在学成績で選考する同様の制度あり。

■専門職学位課程《経営大学院(経営管理研究科)》のみ対象

名称	支援の概要等
専門職大学院経営管理研究科奨励奨学金	入学試験の成績上位者(除く入学時実務経験2年以上)年間15人を上限に、合格発表時に採用内定を行う奨学金は、入学初年度の固定授業料に充当

■全課程対象

名称	趣旨	対象	金額	実績
大学院留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金	留学協定等にもとづく留学プログラムにより派遣する本学大学院生の学修・研究活動を奨励する	留学協定等にもとづく留学プログラム派遣者	派遣期間中に派遣先に納付する授業料または本学に納付する授業料の1/2相当額(所属研究科の授業料の1/2相当額が上限)	9人 (2013年度)
大学院学生研究会活動支援制度	複数の研究科の大学院生による自主的な研究会活動の促進。研究会の企画等に関わる費用および講師の招聘に関わる費用を支援	本学大学院在学者	1研究会当たり年間10万円上限	12団体

奨学金・支援制度の利用例 〈例: 法学研究科〉

修士課程・博士前期課程では全院生の約半数が本学独自の給付制奨学金制度を利用しています。制度を利用することにより、経済的負担は軽減されます。

M1

進学奨励奨学金Aと学内進学予約採用型奨学金を受給した場合

入学試験優秀者に給付される進学奨励奨学金A(40万円)と学内進学予約採用型奨学金(40万円)を受給した場合、授業料は14万2000円となります。あわせて、各種支援制度を利用することで、さらに経済的負担は軽減されます。

※学内進学予約採用型奨学金は2016年度から内容が変更になる可能性がありますので、HPをご確認ください。

年間授業料 94万2000円	進学奨励奨学金A 40万円 学内進学予約採用型奨学金 40万円 年間授業料 14万2000円	TA 3000円/コマ 研究実践活動補助金 国内1.5~3万円/年 国外2~20万円/年 学生会補助金 国内上限3万円/年 国外上限10万円/年	
-------------------	---	---	--

M2

育英奨学金Aを受給した場合

1年次の学修・研究活動、今後のキャリアを見据えた学修・研究活動が評価された場合育英奨学金が給付され、育英奨学金Aに該当した場合は授業料は実質54万2000円となります。あわせて各種支援制度を利用することで、経済的負担はさらに軽減されます。

年間授業料 94万2000円	育英奨学金A 40万円 年間授業料 54万2000円	TA 3000円/コマ 研究実践活動補助金 国内1.5~3万円/年 国外2~20万円/年 学生会補助金 国内上限3万円/年 国外上限10万円/年	
-------------------	-------------------------------------	---	--

留学生M1

私費外国人留学生特別奨励生授業料減免 院生I種を受給した場合

年間授業料が100%減免されます。また、各種支援制度も利用することができます。

年間授業料 94万2000円	授業料 100%減免	TA 3000円/コマ 研究実践活動補助金 国内1.5~3万円/年 国外2~20万円/年 学生会補助金 国内上限3万円/年 国外上限10万円/年	
-------------------	---------------	---	--

私費外国人留学生特別奨励生授業料減免 院生II種と進学奨励奨学金Aを受給した場合

院生II種は、在留資格が「留学」でかつ私費外国人留学生であれば全員が受給対象となり、授業料が20%減免されます。また、入学試験で優秀な成績を修めた場合は、20%減免された金額に対して奨励金が充当され、授業料は35万3600円となります。あわせて各種支援制度を利用することで、経済的負担はさらに軽減されます。

年間授業料 94万2000円	授業料20%減免 年間授業料 75万3600円	進学奨励奨学金A 40万円 年間授業料 35万3600円	TA 3000円/コマ 研究実践活動補助金 国内1.5~3万円/年 国外2~20万円/年 学生会補助金 国内上限3万円/年 国外上限10万円/年
-------------------	-------------------------------	---------------------------------------	---

D1

研究奨励奨学金Aを受給した場合

優秀な研究業績に応じて給付される研究奨励奨学金はA給付に該当すれば授業料相当額の奨励金が給付されるため、授業料は実質免除となります。また、各種支援制度も利用することができます。

年間授業料 研究科一律 50万円	授業料 相当額給付	TA 3000円/コマ 国際的研究活動促進研究費 10~30万円/年 学生会補助金 国内上限3万円/年 国外上限10万円/年	
------------------------	--------------	--	--

立命館大学大学院の概要

衣笠 キャンパス	法学研究科 Graduate School of Law	●博士課程前期課程 法学専攻 ●博士課程後期課程 法学専攻	学位: 修士(法学) 学位: 博士(法学)	《入学定員》60名 《入学定員》10名	
	社会学研究科 Graduate School of Sociology	●博士課程前期課程 応用社会学専攻 ●博士課程後期課程 応用社会学専攻	学位: 修士(社会学) 学位: 博士(社会学)	《入学定員》60名 《入学定員》15名	
	国際関係研究科 Graduate School of International Relations	●博士課程前期課程 国際関係学専攻 ●博士課程後期課程 国際関係学専攻	学位: 修士(国際関係学) 学位: 博士(国際関係学)	《入学定員》60名 《入学定員》10名	
	文学研究科 Graduate School of Letters	●博士課程前期課程 人文学専攻 行動文化情報学専攻 ●博士課程後期課程 人文学専攻 行動文化情報学専攻	学位: 修士(文学) 学位: 修士(文学) 学位: 博士(文学) 学位: 博士(文学)	《入学定員》70名 《入学定員》35名 《入学定員》20名 《入学定員》15名	
	映像研究科 Graduate School of Image Arts	●修士課程 映像専攻	学位: 修士(映像)	《入学定員》10名	
	応用人間科学研究科 Graduate School of Science for Human Services	●修士課程 応用人間科学専攻	学位: 修士(人間科学)	《入学定員》60名	
	言語教育情報研究科 Graduate School of Language Education and Information Science	●修士課程 言語教育情報専攻	学位: 修士(言語教育情報学)	《入学定員》60名	
	先端総合学術研究科 Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences	●一貫制博士課程 先端総合学術専攻	学位: 博士(学術)	《入学定員》30名	
	びわこ・くさつ キャンパス	経済学研究科 Graduate School of Economics	●博士課程前期課程 経済学専攻 ●博士課程後期課程 経済学専攻	学位: 修士(経済学) 学位: 博士(経済学)	《入学定員》50名 《入学定員》5名
		スポーツ健康科学研究科 Graduate School of Sport and Health Science	●博士課程前期課程 スポーツ健康科学専攻 ●博士課程後期課程 スポーツ健康科学専攻	学位: 修士(スポーツ健康科学) 学位: 博士(スポーツ健康科学)	《入学定員》25名 《入学定員》8名
理工学研究科 Graduate School of Science and Engineering		●博士課程前期課程 基礎理工学専攻 電子システム専攻 機械システム専攻 環境都市専攻 ●博士課程後期課程 基礎理工学専攻 電子システム専攻 機械システム専攻 環境都市専攻	学位: 修士(理学) 修士(工学) 《入学定員》50名 《入学定員》180名 《入学定員》140名 《入学定員》80名 学位: 博士(理学) 博士(工学) 《入学定員》6名 《入学定員》8名 《入学定員》11名 《入学定員》15名		
情報理工学研究科 Graduate School of Information Science and Engineering		●博士課程前期課程 情報理工学専攻 ●博士課程後期課程 情報理工学専攻	学位: 修士(工学) 学位: 博士(工学)	《入学定員》200名 《入学定員》15名	
生命科学研究科 Graduate School of Life Sciences		●博士課程前期課程 生命科学専攻 ●博士課程後期課程 生命科学専攻	学位: 修士(理学) 修士(工学) 学位: 博士(理学) 博士(工学)	《入学定員》150名 《入学定員》15名	
薬学研究科 Graduate School of Pharmacy		●博士課程 薬学専攻	学位: 博士(薬学)	《入学定員》3名	
朱雀 キャンパス		法科大学院[法務研究科] School of Law 2015年4月文部科学省 収容定員変更届出予定	●専門職学位課程 法曹養成専攻	学位: 法務博士(専門職)	《入学定員》70名
		公共政策大学院[公務研究科] Graduate School of Public Policy	●修士課程 公共政策専攻	学位: 修士(公共政策)	《入学定員》60名
		経営学研究科 Graduate School of Business Administration	●博士課程前期課程 企業経営専攻 ●博士課程後期課程 企業経営専攻	学位: 修士(経営学) 学位: 博士(経営学)	《入学定員》60名 《入学定員》15名
大塚いばらき キャンパス		政策科学研究科 Graduate School of Policy Science	●博士課程前期課程 政策科学専攻 ●博士課程後期課程 政策科学専攻	学位: 修士(政策科学) 学位: 博士(政策科学)	《入学定員》40名 《入学定員》15名
	テクノロジー・マネジメント研究科 Graduate School of Technology Management	●博士課程前期課程 テクノロジー・マネジメント専攻 ●博士課程後期課程 テクノロジー・マネジメント専攻	学位: 修士(技術経営) 学位: 博士(技術経営)	《入学定員》70名 《入学定員》5名	
	経営大学院[経営管理研究科] Graduate School of Management	●専門職学位課程 経営管理専攻	学位: 経営修士(専門職)	《入学定員》80名	

※応用人間科学、言語教育情報、テクノロジー・マネジメント、公務、および経営管理の各研究科は、大学院設置基準に基づく昼夜開講制を行っています。

法学研究科

Graduate School of Law



多様な人材育成をめざす法学研究科

多様な興味・関心を学問的に深める

学部段階で抱いた問題意識や学問的関心、究明しきれなかったテーマなどを、より専門的に深めるためのコースです。特定の進路に対応した科目群をあえて設定せず、各人の興味・関心にあわせて、他コース向けに開設された諸科目も含めて比較的自由に履修することができます。また、社会人が、職業体験を通じて抱いた興味や関心を研究テーマとして探求することも可能です。

法政リサーチ・コース

研究コース

リーガル・スペシャリスト・コース

公務行政コース

法学・政治学分野の研究者を養成する

研究者養成を目的としたコースです。博士課程前期課程2年、後期課程3年の「ゆるやかな5年一貫制」をとっています。論文作成に向けた個別指導が行われるほか、専門分野ごとの研究会での討論を通じた少人数のグループ指導も行われます。また、法科大学院を修了し司法試験に合格した者を受け入れる後期課程入試も実施しています。

企業法務、税務、不動産法務のスペシャリストを養成する

（ビジネス法プログラム）

（税務プログラム）

（不動産法務プログラム）

民間企業や金融機関で法律専門職として活躍する人を養成するプログラムです。金融・証券関係の法制や証券化などの金融実務を学修します。

税理士や公認会計士など税務のプロフェッショナルを養成するプログラムです。税理士法人・事務所での法務実習を通じて実務感覚も涵養します。

司法書士や民間企業の不動産関係の専門職養成を想定したプログラムです。司法書士事務所での法務実習を通じて理論と実務の架橋を図ります。

法律学の知識を生かせる公務行政のスペシャリストを養成する

国家公務員や国税専門官、裁判所事務官など法律学の知識を必要とする公務員志望者のためのコースです。公務行政のスペシャリストとしての法律職・行政職公務員志望者を想定しています。

◎法学・政治学の研究者、高度専門職業人を養成。

約半世紀の伝統と実績の上に新たな展開をめざす法学研究科。

立命館大学大学院法学研究科は、100年を超える伝統を持つ法学部を基盤とし、1950年の創設以来、研究者や法曹をはじめとする多くの優れた人材を送り出してきました。近年は、税理士や司法書士など高度専門職の養成にも優れた実績を残しています。2016年度からは法律学の知識を必須とする分野でのスペシャリスト養成を目指す「リーガル・スペシャリスト・コース」と「公務行政コース」、多様な興味・関心を学問的に深める「法政リサーチ・コース」、研究者養成のための「研究コース」の4コース制とし、法学・政治学分野での大学院生の新たな進路の開拓に取り組んでいます。

博士課程前期課程における履修の概要

- 研究コース 法学専攻の研究コースの科目から講義8単位、演習4単位、外国書講読(2カ国語)8単位、「特別研究」6単位を含めて、合計30単位以上を履修。特別研究は指導教員による修士論文の指導。
- リーガル・スペシャリスト・コース リーガル・スペシャリスト・コース科目より特別演習6単位を含めて16単位以上を履修し、かつ合計30単位以上を履修。特別演習は1回生後期から1.5年間の指導教員による修士論文の指導。
- 公務行政コース 公務行政コース科目より特別演習6単位を含めて16単位以上を履修し、かつ合計30単位以上を履修。特別演習は1回生後期から1.5年間の指導教員による修士論文の指導。
- 法政リサーチ・コース 特別演習6単位を含めて30単位以上を履修。特別演習は1回生後期から1.5年間の指導教員による修士論文の指導。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

- 研究コース [前期課程] 法学、政治学の専門領域で主体的に研究課題を定め、自らの独創的な視点で研究を進めることができる学術研究者を目指し、そのための基礎的な知識、能力の備わっている人。
- リーガル・スペシャリスト・コース 法学、政治学の知識を必須とする職業分野で、研究を通じて学んだ知識や論理的思考力、洞察力をもって、現代社会の諸問題を解決していく意欲があり、そのための基礎的な知識、能力の備わっている人。
- 公務行政コース 法学、政治学の知識を必須とする公的な職業分野で、研究を通じて学んだ知識や論理的思考力、洞察力をもって、現代社会の諸問題を解決する意欲があり、そのための基礎的な知識、能力の備わっている人。
- 法政リサーチ・コース 自らの問題意識や学問的関心、テーマをより専門的に深めていく意欲が旺盛で、そのための基礎的な知識、能力の備わっている人。
- 研究コース [後期課程] 法学、政治学の専門領域で自らの独創的な視点で研究を進めることができる学術研究者を目指し、かつそのための基礎的な知識、能力の備わっている人。

法学研究科についての詳細は [立命館院法学](#) [検索](#)

博士課程前期課程 研究指導フローチャート

(リーガル・スペシャリスト・コース、公務行政コース、法政リサーチ・コース共通)



社会学研究科

Graduate School of Sociology



◎国内外の諸課題を学際的・創造的に解明する力を養う。

社会学研究科は、1972年に社会学をはじめとする諸科学の協同によって、現代社会を総合的に把握し、現代社会が直面する諸課題に立ち向かうとする高い志に基づき開設されました。現代社会が提起する諸問題を社会学と既存の学問諸分野との協同によって解明し、社会的に要請される実践的課題にこたえる研究者と専門職業人の養成を目指しています。

「国際化」・「資格取得」・「プロジェクト型研究」

教学の国際化に向けた取組みとして、国際社会研究領域の一部科目を基本的に英語で開講しており、また英国・ランカスター大学、韓国・中央大学校など海外の大学院との合同研究報告会の開催やDMDP(修士課程共同学位プログラム)などを通じて院生の国際交流にも力を入れています。「資格取得」の面では、社会調査の専門的知識と技能の修得を目的とした「社会調査士・専門社会調査士課程」を設置し、キャリアアップを支援しています。また、本研究科の複合的な研究分野を統合し幅広く実践的な教育を提供するため、「プロジェクト型研究」にも力点を置いており、複数の教員による集団指導を行う横断型のプロジェクト型科目「先進プロジェクト研究」を設けています。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

- 前期課程
 - 社会学の最新成果から、現代社会の諸現象・諸問題を解明しようとする明確な問題意識を持つもの。
 - 学術研究を遂行する上で必要不可欠な実証的調査活動(たとえば、資料文献解読、統計データ解析、フィールドワーク等)に興味と関心を抱くもの。
 - グローバルな視点を持ち、広い視野にたった専門性を追求したいと考えるもの。
 - 現代社会で必要とされる高度な知識と能力を身につけ、キャリアアップを目指したいと考えるもの。
 - 社会学の他、経済学・政治学・心理学・福祉学・歴史学・環境学などの現代的な問題をホリスティックなアプローチを通して、新たな学問の地平を切り拓きたいと考えるもの。
 - 以上の事項を遂行するための基礎的な能力を有するもの。
- 後期課程
 - 社会学の最新成果から、現代社会の諸現象・諸問題を解明しようとする明確な問題意識を持つもの。
 - 学術研究を遂行する上で必要不可欠な実証的調査活動(たとえば、資料文献解読、統計データ解析、フィールドワーク等)に興味と関心を抱くもの。
 - 社会学の他、経済学・政治学・心理学・福祉学・歴史学・環境学などの現代的な問題をホリスティックなアプローチを通して、新たな学問の地平を切り拓きたいと考えるもの。
 - グローバルな視点を持ち、広い視野にたった専門性を追求したいと考えるもの。
 - 以上の事項を遂行するための必要な能力を有するもの。

社会学研究科についての詳細は [立命館 院 社会学](#) [検索](#)

特徴ある2つの「コース」と3つの「研究領域」

社会学研究科では、特徴ある2つの「コース」(前期課程のみ)と3つの「研究領域」によって、国内外での諸課題を学際的・創造的に解明する力を養成します。※所属する「コース」および「研究領域」は入学試験出願時に選択していただきます。

目指す進路に応じて選択する2つの「コース」(前期課程のみ)

- 研究コース

博士課程前期課程2年と博士課程後期課程3年の間において継続して研究し、大学や研究諸機関の研究者を目指す人のためのコースです。本コースの修了者は、大学教員はもちろんのこと、公務員、教員、団体職員、本学講師などの分野で活躍しています。
- 高度専門コース

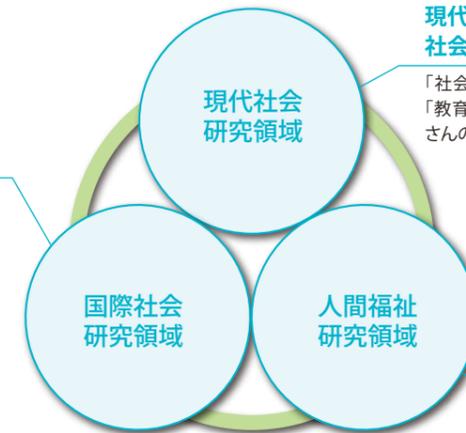
博士課程前期課程2年間で専門分野を研究しキャリアアップを目指す人のためのコースです。本コースの修了者は、マスメディアをはじめとする各種民間企業、学校、福祉団体、病院、政府機関など多様な分野に就職し、活躍しています。

3つの「研究領域」

〈現代社会研究領域〉〈人間福祉研究領域〉〈国際社会研究領域〉を中心に、既存の枠組みを超えた研究分野を提示しています。

国際社会における諸問題を把握し、その問題の解決に向けて行政的、企業的、市民的貢献の可能性を探究する

国際的な視野に立った大学院生の育成を目指しています。この研究領域の科目は、基本的に英語で授業が行われ、国際社会の諸相を研究したいと考えているみなさんのニーズにあった科目を配置しています。本領域には「国際社会」「国際福祉」の研究系を配置しています。



現代社会を社会学および社会諸科学を基礎に研究する

「社会形成」「社会文化」「環境社会」「メディア社会」「教育社会」「スポーツ社会」の各研究系をおき、みなさんの研究分野をバックアップしています。

福祉を社会と人間の観点から研究する

「福祉社会」「福祉実践」の研究系をおき、福祉分野の研究を進めるための科目を配置しています。

開講科目一覧

[2015年度](シラバスは社会学研究科ホームページからご覧いただけます)

科目区分	科目名	単位	科目区分	科目名	単位	科目区分	科目名	単位	
現代社会研究領域科目	社会形成研究系科目	市民社会研究	2単位	国際社会研究領域科目	国際事情研究	2単位	語学運用科目群科目	アカデミックライティング	2単位
		経済社会研究	2単位		国際社会研究	2単位		アカデミックP&D	2単位
		産業社会研究	2単位		比較社会研究Ⅰ(奇数年度開講)	2単位		資料文献研究ⅠA	2単位
	社会文化研究系科目	社会文化研究	2単位		比較社会研究Ⅱ(偶数年度開講)	2単位		資料文献研究ⅡA	2単位
		人間文化研究	2単位		日本社会研究Ⅰ(奇数年度開講)	2単位		資料文献研究ⅠB	2単位
		社会病理研究	2単位		日本社会研究Ⅱ(偶数年度開講)	2単位		資料文献研究ⅡB	2単位
	環境社会研究系科目	環境社会研究	2単位	国際福祉研究系科目	比較福祉研究Ⅰ(奇数年度開講)	2単位	社会調査研究Ⅰ	2単位	
		地域社会研究	2単位		比較福祉研究Ⅱ(偶数年度開講)	2単位	社会調査研究Ⅱ	2単位	
		市民活動研究	2単位		国際ソーシャルワーク研究(奇数年度開講)	2単位	情報処理統計学Ⅰ	2単位	
	メディア社会研究系科目	ジャーナリズム研究	2単位	研究入門科目群科目	社会学研究法(研究)	2単位	専門社会調査士関連科目群科目	社会調査研究Ⅱ	2単位
		グローバルメディア研究	2単位		社会学研究法(高度専門)	2単位		情報処理統計学Ⅱ	2単位
		メディア文化研究	2単位		現代社会研究	2単位		社会統計研究	2単位
教育社会研究系科目	教育社会研究	2単位	基礎理論科目群科目		人間福祉研究	2単位	社会調査士関連科目群科目	(社会調査士関連科目)	修了要件単位外
	学校教育研究	2単位			社会学基礎理論	2単位		研究科共通オープン科目	応用社会学特殊講義A
	教育臨床研究	2単位			社会科学研究	2単位	応用社会学特殊講義B		2単位
スポーツ社会研究系科目	スポーツ社会研究	2単位		社会史研究	2単位	応用社会学特殊講義C	2単位		
	スポーツ文化研究	2単位		現代社会学研究	2単位	市民活動特殊講義	2単位		
	スポーツマネジメント研究	2単位		情報社会研究	2単位	応用社会学実習A	2単位		
人間福祉研究領域科目	福祉社会研究系科目	福祉社会研究	2単位	指導科目群科目	社会学研究	2単位	実習・プロジェクト科目群科目	応用社会学実習B	4単位
		高齢社会研究	2単位		社会福祉学研究	2単位		応用社会学実習C	2単位
		地域福祉研究	2単位		特別演習Ⅰ~Ⅳ	2単位	先進プロジェクト研究	4単位	
	福祉実践研究系科目	国際福祉研究	2単位	応用社会学特殊研究Ⅰ~Ⅵ	2単位	履修交流科目群科目	単位互換履修科目	1~4単位	
		福祉政策研究	2単位				応用社会学講義	2単位	
		発達保障研究	2単位						

※上記科目は2015年度に開講している科目の一覧です。一部の科目については2016年度に開講されない場合もあります。
※国際社会研究領域科目および語学運用科目群科目の一部科目については、隔年開講となっております。

国際関係研究科

Graduate School of International Relations



2015年4月「Global and Japanese Perspectives Program」開設

◎日本から世界へ、世界から日本へ グローバル化のなかで両者を架橋する人材を育成

国際関係研究科は政治、経済、文化・社会を含む学際的な社会科学としての国際関係学を柱に、国際社会の諸問題の解決に知的に貢献するため1992年に設立されました。国際関係学の研究者に留まらず、国際社会や地域社会でそれぞれの立場から国境を越えて活躍する専門性を備えた実務家を養成します。その中でも2015年4月開設のGJPPは日本と世界をつなぐ人材を育成する二言語プログラムです。日本語母語者は英語でも、英語が十分に出来る国際学生は日本語でも学ぶことにより、最後は両者が融合し、日本と世界が結びついた小さなGlobal and Japanese Community を研究科内に実現します。修了後は実社会という大きな舞台でその素養を活かします。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

- 博士課程前期課程 国際関係学の専門知識と異文化間の媒介能力とに裏打ちされた学際的・複眼的な視点を身に付け、国際社会における秩序や平和の構築、国際開発・協力の促進、多文化社会の諸課題の解決などの課題について専門家として分析する力を培い、また特に日本と世界とを媒介する志をもつ学生を求めています。
- 博士課程後期課程 所定の期間中に博士号を取得することを目指し、国際関係学の専門知識と異文化間の媒介能力とに裏打ちされた学際的・複眼的な視点を身に付け、国際社会における秩序や平和の構築、国際開発・協力の促進、多文化社会の諸課題の解決などの課題について、独創的な知的分析を行う力、および高度な専門家として実践的な課題解決に貢献する力を培って、修了後は、大学などの高等教育・研究機関における教育・研究職、および各種の国際機関を含む、高度な専門的知識を要する職に就くことを志す学生を求めています。



国際関係研究科についての詳細は [立命館 院 国際関係](#) [検索](#)

5つの柔軟なプログラムで学際的なカリキュラムを展開

【日本語で修了可能なプログラム】

グローバル・ガバナンス プログラム

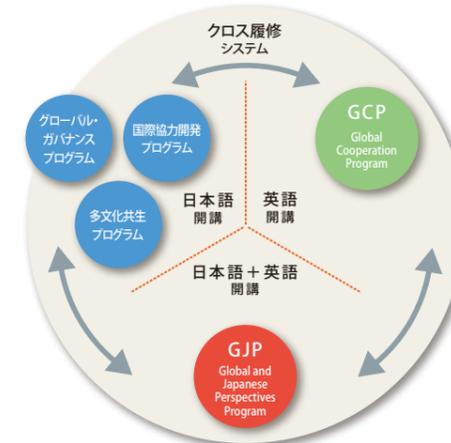
現代のグローバル化の進展は、国家のガバナンス能力の危機を生み出しています。本プログラムは、各地で勃発する民族・宗教紛争、テロや麻薬などの国際犯罪、環境破壊や感染症などの一国では対処不可能な課題に、国際社会はどう取り組み、平和と正義と民主主義を保障していくべきかを研究し、グローバル・ガバナンスの全体構造と動態を政治・経済・社会の側面から追います。

国際協力開発 プログラム

世界の圧倒的多数の人々は貧困と飢餓に苦しんでおり、今ほど「南北問題」の解決と、新たな国際経済システムの構築が求められているときはありません。本プログラムは、持続的な開発政策、貧困削減、国際援助、地域経済統合、市場経済の展開を研究し、それらの政治的・社会的背景とインパクトを理解することで、21世紀の世界の行方を総合的に追究していきます。

多文化共生 プログラム

情報通信技術 (ICT) の飛躍的な進歩によって、「世界は一つ」になりつつあります。本プログラムは、世界の一体化が、各国・各社会の文化にどのような影響を与えているのか、文化の変容をどう考えればよいのか、文化の衝突ではなく共生のために、我々は何を努力していくべきか、について研究します。



【英語で修了可能なプログラム】

GCP 《Global Cooperation Program》

グローバル化を通じて、世界にはこれまでにないかたちで様々なボーダーを超える結びつきが生まれています。それは国際的な諸問題に新しい次元の複雑さをもたらすとともに、そうした問題を解決するための新しい協力の可能性を開いていきます。本プログラムでは、世界約20カ国以上の人たちが「国際協力と開発」をキーワードに英語で国際関係学を学んでいます。既に開設から10年以上の実績があり、世界各国の行政官など国を代表するリーダーとして多くの修了生が活躍しているほか、多くの日本人学生も本プログラムを経て実務家として活躍しています。

NEW GJP 《Global and Japanese Perspectives Program》

グローバル化の進展にともなう、実務的な英語の力や多文化的な組織に対応できる素養をもつ人材を求める社会のニーズが高まっています。学部までの学びからもう一歩踏み込んで「グローバル人材」を目指したい、本プログラムは、そんな方に向けて英語でのコア科目と演習を主体としつつ、日本語による科目を組み合わせて無理なくステップアップできる「育成志向」のカリキュラムで構成されています。多文化時代にふさわしい国際関係学の基礎と国際社会を見る日本の視点の強調した本プログラムは、日本から世界への発信を担う真のグローバル人材の育成を目指します。

主な開講科目一覧

※他にも多数の科目を開講しています。詳しくはHPをご覧ください。

分野	グローバル・ガバナンス	国際協力開発	多文化共生
コア科目 Core Courses	グローバル・ガバナンス史研究 グローバル市民社会研究 開発経済論研究 国際マクロ経済学 国際関係論研究	国際社会論研究 国際法研究 多元文化論研究 世界経済論研究	
プログラム科目 Program Courses	比較政治論研究 平和構築と予防外交研究 国際機構論研究 先進国政治論研究 現代民主主義研究	国際協力政策研究 途上国政治論研究 社会開発論研究 地域開発研究 環境経済論研究	比較社会史研究 グローバルイゼーションとジェンダー研究 グローバルイゼーションと地域文化研究 マイグレーション研究 メディアと国際社会研究

- 特徴的な学び 1 「国際的な大学院ネットワーク (APSIA) へ、日本唯一の正会員加盟」**
ハーバード大学、イェール大学を始めとした世界の国際関係学をリードする大学院が集まる、国際的な大学院ネットワーク (APSIA) に日本の大学・大学院の中で唯一正会員として加盟し、国際関係学の教育・研究で日本をリードする存在として世界的に認められています。加盟大学院間で教員や院生の研究交流が活発に実施され、2014年度も院生の研究交流会が開催されました。
- 特徴的な学び 2 多様性から学ぶ ▶ 世界各国から集う留学生と高めあう**
世界各地から留学生が集い、その数は在院生の半数を占めています。留学生の出身国 (2014年後期 semester 在籍) ASEAN: インドネシア・カンボジア・ベトナム・マレーシア・ミャンマー・ラオス/東アジア: 韓国・台湾・中国・日本・モンゴル/北南米: カナダ・チリ・米国・メキシコ/ヨーロッパ: イギリス・ウクライナ・スペイン・ノルウェー/アフリカ: ウガンダ・スーダン・マダガスカル・リベリア
- 特徴的な学び 3 世界で学ぶ ▶ Dual Master's Degree Program (DMDP)**
約1年間、海外の大学に院生を派遣。最短2年間で2つの修士号を取得できる画期的な制度です。
協定先 (2015年2月現在) ●アメリカン大学国際関係大学院 (School of International Service: SIS) (アメリカ) ●エラスムス大学ロッテルダム・社会科学大学院大学 (ISS) (オランダ) ●ランカスター大学 (英国) ●ヨーク大学 (英国) ●ロンドン大学ロイヤルハロウエイ校 (英国) ●慶熙 (キョンヒ) 大学校 (韓国)
- 特徴的な学び 4 エキスパートから学ぶ ▶ 経験豊富な実務家教員**
2014年度に出演した主な客員教授・特別招聘教授
2014年度に出演した協定期間派遣の客員教授
高須幸雄 国連事務次長 数中三十二 元外務事務次官 弓削範泰 [株式会社 国際協力銀行] 百本和弘 [独立行政法人 日本貿易振興機構 (JETRO)] 桑島京子 [独立行政法人 国際協力機構 (JICA)] ※客員教授や特別招聘教授の出演は、年によって変更になることがあります。
- 特徴的な学び 5 フィールドから学ぶ ▶ インターンシップ・フィールドリサーチを推進**
国内外の機関とインターンシップに関する協定を結び、博士課程前期課程の院生を中心に実習生 (インターン) として派遣しています。
協定先 ●国連ボランティア計画本部 (ドイツ・ボン) ●日本貿易振興機構 (国内外) ●国際交流基金 ●国際連合大学本部 ●国際連合人道問題調整事務所 ●日本・スペイン文化経済交流センター など ※募集されるインターン先は年度によって異なります。詳しくはお問い合わせください。

※国際関係研究科HP: <http://www.ritsumeai.ac.jp/gsir/>

文学研究科

Graduate School of Letters



◎人間とその文化を、多様かつ現代的な視点から研究。

どれだけ時代が移り変わっても、人間が思考・行動し、あるいは表現をなす、すなわちその文化的な営みのなかには、変わらぬ部分が横たわっています。この不変性(普遍性)を、壮大な歴史の流れや自身が生きる現代との相関のなかで生き生きと捉えるのが、ほかでもない人文学ですが、とすれば国際化やIT化が劇的に進展し、環境問題への対応の緊急性が明らかになった今日、この学問はより重要性を増しているというべきでしょう。文学研究科はこの自覚にもとづき、具体的には次の3つの目標を掲げながら、教育と研究の成果を発信してゆきます。

- POINT.1** 既存の研究分野の高度化を目指すとともに、それらの領域を超えた新しい人文学分野を創出すること
- POINT.2** 研究者を目指すだけでなく、高度職業人を目指したり、教養を深めたり、といった多様な要望に対応すること
- POINT.3** 人文学研究を社会的に生かすために、実践的語学力や情報技術等のさまざまな能力を養うこと

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

- 博士課程前期課程
 - ①人文学専攻
 - 【研究一貫コース】 各領域の研究者になるために必要とされる、深い教養を身に付け、豊かな創造力を培う志をもつ人を求める。博士学位の取得を目指す学生を求める。
 - 【高度専門コース】 中学・高校の教員、公務員、学芸員を含む、専門的知識や技術が要求される職に就くことを志す人を求める。また、現在、教員、公務員、研究員、学芸員などの有職者で、専門的な技能や知識を身につけるために進学し、コースを修了した後に、元の職場に復帰する人を求める。
 - ②行動文化情報学専攻
 - 【研究一貫コース】 各領域の研究者になるために必要とされる、深い教養を身に付け、豊かな創造力を培う志をもつ人を求める。特に、人文学のさまざまな領域のデータを情報科学の観点から対処することに興味をもつ人を求める。博士学位の取得を目指す人を求める。
 - 【高度専門コース】 中学・高校の教員、公務員、コンサルタント、学芸員を含む、専門的知識や技術が要求される職に就くことを志す人を求める。特に、人文学のさまざまな領域のデータを情報科学の観点から対処することに興味をもつ人を求める。また、現在、教員、公務員、研究員、学芸員などの有職者で、専門的な技能や知識を身につけるために進学し、課程を修了した後に、元の職場に復帰する人を求める。
- 博士課程後期課程
 - ①人文学専攻

博士課程後期課程においては、所定の期間中に博士学位の取得を志す人、また課程を修了した後は、大学などの高等教育・研究機関で教育・研究に従事することを目標とする人が望まれる。そのために自己の専門領域の研究を極め、その領域において従来の研究には見られない独創性あふれる研究を展開するとともに、隣接する他学問領域へも幅広い関心を持ち、研究を学際的・総合的に構築しよう人が望まれる。また主要学会で研究発表を行い、主要学会誌に論文を投稿し、それが採用されるだけの力量を有する人が望まれる。
 - ②行動文化情報学専攻

博士課程後期課程においては、所定の期間中に博士学位の取得を志す人、また課程を修了した後は、大学などの高等教育・研究機関で教育・研究に従事することを目標とする人が望まれる。そのために自己の専門領域の研究を極め、その領域において従来の研究には見られない独創性あふれる研究を展開するとともに、隣接する他学問領域へも幅広い関心を持ち、研究を学際的・総合的に構築しよう人が望まれる。人文学に活用できるだけの情報科学に関する十分な知識と技能を有する人が望まれる。また主要学会で研究発表を行い、主要学会誌に論文を投稿し、それが採用されるだけの力量を有する人が望まれる。

多様な教育・研究を生み出す2つの専攻、15の専修

文学研究科は人文学専攻と行動文化情報学専攻による、2専攻15専修の体制となっています。伝統的な人文学に加え、情報技術と人文学を融合させたこれまでにない新しい学問分野を展開していきます。

人文学専攻 文学研究科	哲学専修	古代ギリシャ哲学から近代哲学、倫理学、社会哲学、現象学、フランス現代思想といった諸分野に専任スタッフを配置し、2600年以上前に始まる「人間とは何か」という課題に取り組みます。	
	教育人間学専修	「こころ」の問題を媒介として、教育と人間のかかわりを多角的に考究します。その出発点は、生まれ、育ち、出会いや別れをへて、やがて老い、死にゆく人間の営みに対する驚きと慈しみです。	
	日本文学専修	長い歴史に培われた日本の文学作品やことばを通じて、日本文化の特質を探索します。想像力溢れる作品群は、時代を超えて私たちの胸を打ちます。新たな視点で先端的な研究をめざします。	
	中国文学・思想専修	悠久の歴史の中ではぐくまれ、東アジアの文化に大きな影響力をもつ中国の文学や思想に関する高い識見を養い、そこに存在する興味深い問題について清新な研究を展開します。	
	英米文学専修	英米を中心とする英語文学・文化を広く深くカバーする専門分野の教員が指導に当たり、高度な英語力や分析力を養います。研究職はもとより、英語力が要求される多様な職場への就職が考えられます。	
	日本史学専修	古代から現代に至る各時代のスペシャリストが、伝統ある「立命史学」に立脚した新たな歴史学を構築します。全国各地で教員・学芸員として活躍する先輩たちとのネットワークも充実しています。	
	東洋史学専修	中国を中心とする東アジア世界を、その起源に遡って研究します。そのための方法としての原典読解は、昨今の東アジア諸地域におけるダイナミックな動きの原点を探る上で有益でしょう。	
	西洋史学専修	古代～現代の西欧・東欧における政治史、文化史、社会史など広い領域にわたる教員スタッフが、専門の垣根を越えて研究を発展・深化できるように、協働しています。	
	文化動態学専修 [博士課程前期課程のみの募集]	比較文化論、言語学、歴史学、美術史、現代芸術批評、音楽文化論、社会思想史、文化人類学等の専門領域を横断しながら文化のダイナミズムに取り組める専修です。	
	現代東アジア言語・文化学専修	中国(台湾・香港などを含む)・朝鮮半島を領域とし、そこにおける言語・現代文化・現代史を教学分野として、中国語・朝鮮語の実践的なコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな東アジア人を育成します。	
	英語圏文化専修	英語学・言語およびアメリカ研究を中心として英語圏地域の歴史、文化・文学を分野横断的に研究します。高度な専門性を磨きつつ学際的な思考力を身につけます。また、これらの研究を通して国際的に活躍できる英語運用能力を養います。	
	行動文化情報学専攻	心理学専修	人間の内なる心理現象と、それと関連して起こる行動を、心理学は科学的に理解しようと試みます。そうして修得された能力は、現代社会のさまざまな場面で実践的に生かされるでしょう。
		地理学専修	地表上のさまざまな現象を空間的関連性の観点から解明するのが地理学です。専修には幅広い専門分野に多くの教員スタッフがいて、質の高い研究・教育を展開しています。
		文化情報学専修	人文学に情報技術を取り入れたデジタル・ヒューマニティーズ手法を応用し、世界に誇る日本文化・芸術・文化遺産をテーマに、研究手法の格段の効率化を図り、魅力的で豊富な専門知識をキュレーションできる人材を育成します。
		考古学・文化遺産専修	人類の残した遺跡や遺物から歴史を復元する考古学を学ぶと同時に、遺跡や遺物を中心とする文化遺産の保存と活用について学びます。日本列島の考古学と文化遺産が対象ですが、日本列島以外についても広く学ぶことが可能です。

大学院生の目的に応じた2つのコースを設置

[博士課程前期課程]

前期課程では、様々な目的を持つ人を受け入れるため、2つのコース(研究一貫コース、高度専門コース)を導入しています。コースは入学試験出願時に決定し、入学後はそれぞれの目標に沿って研究を進めていきます。

研究一貫コース

博士課程後期課程に進学して博士学位を取得することを目指す人。博士学位取得後は、高等教育・研究機関での教育・研究に従事することを目標とする人を対象とします。

高度専門コース

博士課程前期課程修了後は、中学・高等学校教員、公務員、学芸員などの専門的知識が必要とされる職業を目指す人。また現役の有職者で、より専門的な能力を身に付けることを目指す人。その他、社会人として幅広い活動に応えられる教養を身に付けることを目的とする人を対象とします。

映像研究科

Graduate School of Image Arts



◎プロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成。

近年、多様化する映像文化・映像産業をめぐる状況の中では、映像に関するジェネラリスト的な素養と領域・分野に応じた特化した高い能力が求められます。映像研究科は、立命館大学が総合大学であることのメリットを活かした幅広い教養と、映像の制作(作品制作にとどまらず、開発・活用を含みます)に関連する技能・技術・分析法の修得により、こうした能力を養成することを目指します。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

映像研究科は、映像に関する制作、流通、販売についての総合的な視点を携えるプロデューサー・マインドの上に立脚しつつ、映像をめぐる構造化されてきた問題領域を視野に取めながらその制作上の課題を発見し、かつそれに柔軟な複眼的視点のもとに取り組むことのできる能力を「ビジュアル・イメージ・ディレクション(Visual Image Direction)」と規定し、多様な映像分野においてその能力を発揮できる人材の育成を目的としています。これを実現できる人材を選抜するために、映像研究科では、以下のような指標に基づき選考をおこないます。

1. これまでの実績が、映像研究科の研究領域であるサブジェクト・ゾーンにおいて前述の人材育成目的を到達しうる素養を持ち得ていると判断できるか。
2. 研究計画書が具体的であり、且つ映像研究科の人材育成目的と合致しているか。
3. 映像研究における基礎的素養及びグローバル化する映像研究領域に耐えうる語学力を有しているか。
4. 自身の言葉で自らが有する映像分野に関する知識を明確に伝え、且つ履修後における将来像を示すことができるか。

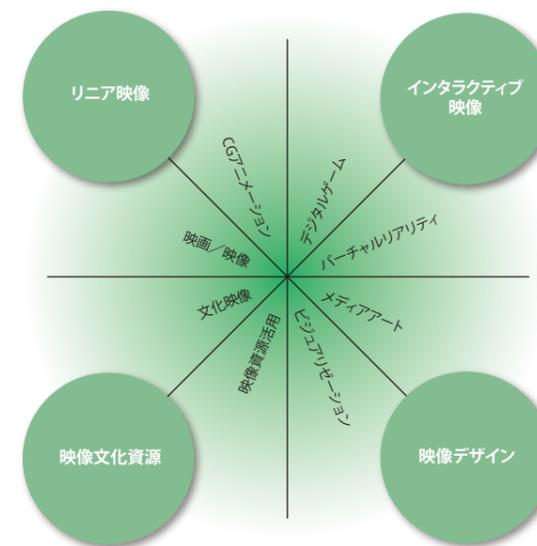
施設紹介



左/立命館松竹スタジオ
右/R1・R2スタジオ

映像研究科についての詳細は [立命館 院 映像](#) [検索](#)

4つの「サブジェクト・ゾーン」

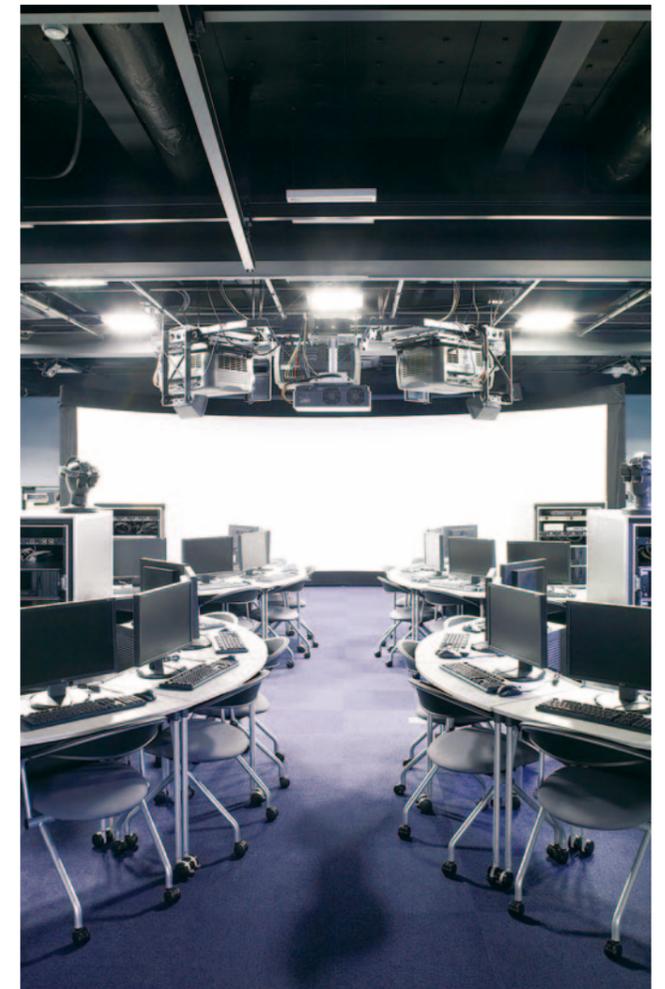


CONCEPT

少人数教育

重要関連領域を自在に学べる
4つの「サブジェクト・ゾーン」を設定

制作実習、演習、インターンシップなど
実践的に学べる科目に重点を置いた科目配置



サブジェクト・ゾーンごとの目標

サブジェクト・ゾーン	目 標
リニア映像	映画を含めた実写映像およびCGアニメーションの作品制作において、自らの制作意図を広い観点から関連分野の中で位置づける視野、および必要な技法、特殊な機材運用法やアプリケーションの使用法を身につけます。また、あらたな表現技法を模索しつつ、突出した個性を持つリニア系映像作品を制作していくことができる能力を獲得します。
インタラクティブ映像	インタラクティブ映像の特質に基づいたナラティブの研究・企画・活用を基盤として、実用に耐えうるクオリティと国際マーケットでの位置づけを意識したコンテンツを企画する能力を磨きます。また、従来型のゲームコンテンツやハードウェアおよびソフトウェア技術の枠を超えて新しい映像体験コンテンツを制作実践する専門性を獲得します。
映像デザイン	科学技術および人文学・芸術学の観点からのメディア表現可能性に対する基礎研究をおこなう能力を培います。また、視覚情報の伝達と受容に関する知識を有し、非視覚情報のビジュアリゼーション・視覚化、メディアアート作品の制作などをおこなっていくことができるビジュアリゼーションとメディアデザインの技能・技術を獲得します。
映像文化資源	人間の文化的活動によって生み出された有形・無形の文化的所産を、科学映像や民族史映像といった映像資源として記録する知識と技能、および、映像を社会的に活用できる資源管理の方法論を学びます。また、社会還元や国際貢献を視野に入れた営利・非営利的な活動に適応可能な資源運用と資源開発の企画・調整をおこなうことができる能力を獲得します。

※過去の修士論文・制作の題目、在学院生、修了生の声などはHPにて掲載中
<http://www.ritsumeai.ac.jp/cias/>
<http://www.ritsumeai.ac.jp/gsia/>

応用人間科学研究科

Graduate School of Science for Human Services



※震災復興プロジェクトで被災地の子供たちとクリスマスカレンダーを製作中(村本邦子教授)

◎人間科学諸学の「連携・融合」から新たな対人援助学を創造。

本研究科は、対人援助(ヒューマンサービス)という社会的営為について、従来の学問領域を超えて融合し、対人援助に携わる人たちが連携できる新しい学問領域を、教員と院生が協力して追求していこうとする大学院です。心理学、教育学、社会福祉学など諸科学の「連携と融合」による対人援助の研究・教育分野を創造し、この分野の高度専門職の養成をめざしています。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

応用人間科学研究科は、心理学、教育学、社会学、社会福祉学など、諸科学の連携と融合による対人援助(ヒューマンサービス)に関する新しい研究・教育分野を創造し、関係する分野の高度専門職の養成を目指しています。このような研究科の理念に賛同し、対人援助(ヒューマンサービス)という実践領域に強い関心と意欲をもち、修士課程を通じて、高度な専門性の獲得をめざす下記のような条件を満たす人材を求めます。

1. 対人援助に関する基礎的知識を有する
2. 対人援助の実践と理論を相互還元させてとらえることができる
3. 対人援助を諸科学の融合と連携の観点から総合的にとらえることができる
4. 人びとのニーズを社会へ向けての権利擁護の姿勢をもってとらえることができる
5. 対人援助の新しい科学の創造に高いこころざしと意欲をもって挑戦できる



応用人間科学研究科についての詳細は [立命館 応用](#) [検索](#)

応用人間科学研究科 教学の特色

対人援助の幅広い領域に人間科学の視点からアプローチ。

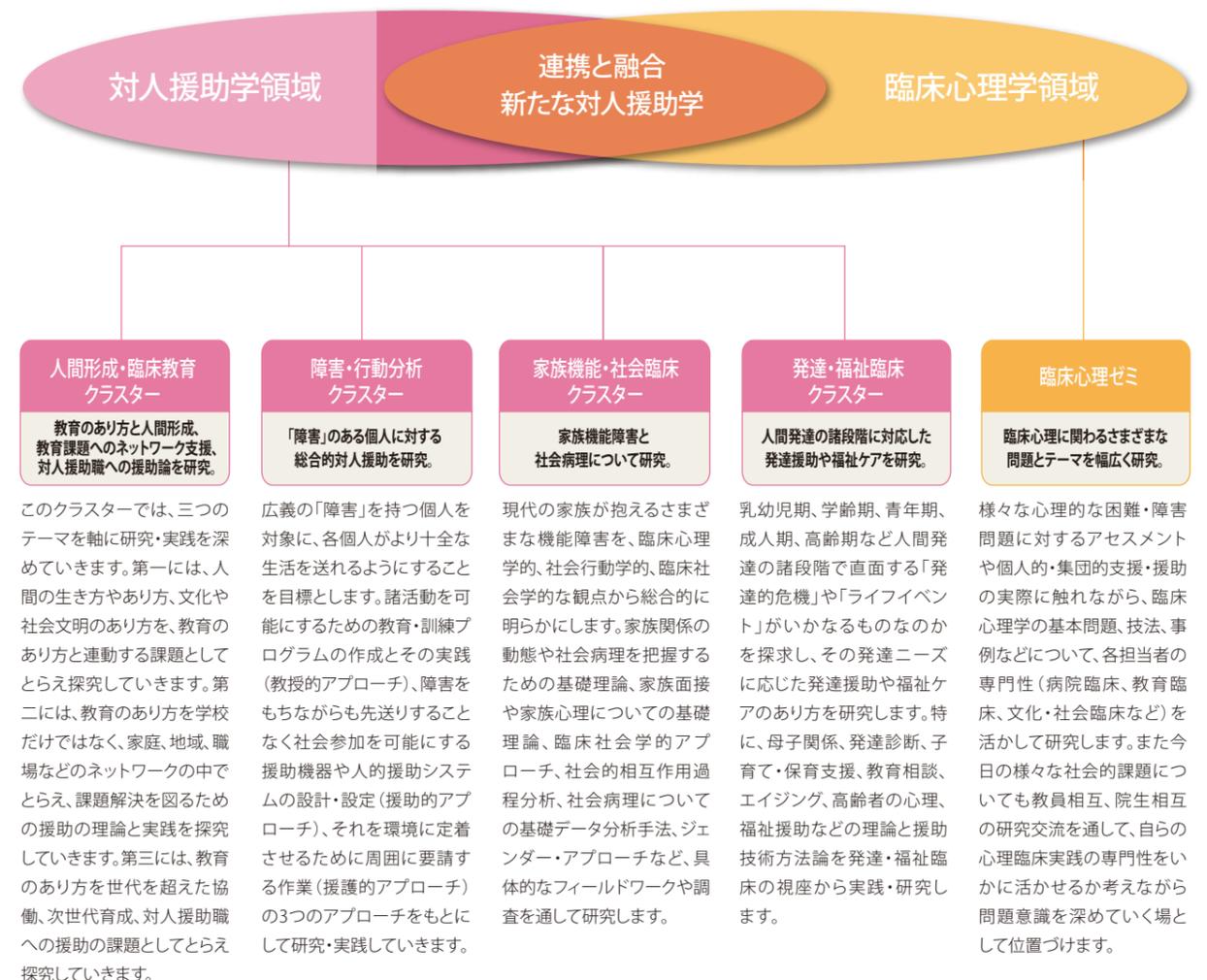
応用人間科学研究科の教育・研究の対象は「対人援助(ヒューマンサービス)」です。これには、直接援助の技法と理論だけでなく、援助者の援助(間接援助)、援助システムの構築なども含まれます。本研究科はこうした一連の対人援助の諸分野における高度専門職業人の養成をめざしています。さらに、より発展的な研究・実践の推進をめざし、心理・教育相談センター、人間科学研究所、各種研究プロジェクトと積極的に連携して地域フィールドにおける研究・教学も展開しています。

臨床心理学領域と対人援助学領域の二つの体系的カリキュラム。

本研究科は2つの領域を開講しています。各々の領域に対応した高度専門職業人の養成を目標としています。そのため社会科学的なマクロ的視野と対人援助技術を有機的に結びつけることを重視したカリキュラムを設けています。本研究科では対人援助の現場で活躍する実践家を「社会人入学試験」「社会人協定入学試験」方式で受け入れています。対人援助学領域の講義時間帯は、現職社会人にも対応するために、5時限目以降の夜間時間帯を中心に、夏期・冬期集中などを取り入れています。

研究科独自の国際交流活動を推進。

応用人間科学研究科では、海外から留学生を受け入れたり、研究者を招聘して学術交流に取り組んだりしています。独自の国際交流活動としては、アジアの文化と西欧の文化の統合をめざして、ユニークな教育と研究を展開しているアメリカ、サンフランシスコのCalifornia Institute of Integral Studies(通称CIIS)や、ベトナム国立ハノイ師範大学障害児教育学科、中国・蘇州大学教育学院と学生・研究者交流プログラムを実施しています。



このクラスターでは、三つのテーマを軸に研究・実践を深めていきます。第一には、人間の生き方やあり方、文化や社会文明のあり方を、教育のあり方と連動する課題としてとらえ探究していきます。第二には、教育のあり方を学校だけでなく、家庭、地域、職場などのネットワークの中でとらえ、課題解決を図るための援助の理論と実践を探究していきます。第三には、教育のあり方を世代を超えた協働、次世代育成、対人援助職への援助の課題としてとらえ探究していきます。

広義の「障害」を持つ個人を対象に、各個人がより十全な生活を送れるようにすることを目標とします。諸活動を可能にするための教育・訓練プログラムの作成とその実践(教授的アプローチ)、障害をもちながらも先送りすることなく社会参加を可能にする援助機器や人的援助システム的设计・設定(援助的アプローチ)、それを環境に定着させるために周囲に要請する作業(援護的アプローチ)の3つのアプローチをもとにして研究・実践していきます。

現代の家族が抱えるさまざまな機能障害を、臨床心理学的、社会行動学的、臨床社会学的な観点から総合的に明らかにします。家族関係の動態や社会病理を把握するための基礎理論、家族面接や家族心理についての基礎理論、臨床社会学的アプローチ、社会的相互作用過程分析、社会病理についての基礎データ分析手法、ジェンダー・アプローチなど、具体的なフィールドワークや調査を通して研究します。

乳幼児期、学齢期、青年期、成人期、高齢期など人間発達の諸段階で直面する「発達の危機」や「ライフイベント」がいかなるものなのかを探求し、その発達ニーズに応じた発達援助や福祉ケアのあり方を研究します。特に、母子関係、発達診断、子育て・保育支援、教育相談、エイジング、高齢者の心理、福祉援助などの理論と援助技術方法論を発達・福祉臨床の視点から実践・研究します。

様々な心理的な困難・障害問題に対するアセスメントや個人的・集団的支援・援助の実際に触れながら、臨床心理学の基本問題、技法、事例などについて、各担当者の専門性(病院臨床、教育臨床、文化・社会臨床など)を活かして研究します。また今日の様々な社会的課題についても教員相互、院生相互の研究交流を通して、自らの心理臨床実践の専門性をいかに活かせるか考えながら問題意識を深めていく場として位置づけます。

言語教育情報研究科

Graduate School of Language Education and Information Science



◎「ことば」のプロになる。

今、国際社会で日本の置かれた状況を考えると、高度な英語の運用能力に加えて、最先端の教育理論や教授法に基づき、情報機器を使用した新しい教材作成なども行なえる英語教員が求められています。また、日本語をはじめとする日本文化を海外に発信するだけでなく、留学生、外国人労働者やその子弟に対する日本語教育も重要な課題となっています。言語科学研究でも、言語の持つ社会的機能や場面に目を向けた社会言語学の知見や、言語メカニズム解明の手法として脳イメージング技術、更に情報機器を利用したコーパス言語学のような新しい方法論を取り込む時代となりました。

本研究科は、このような時代の要請に応える高度専門職業人を養成することを目的として設立されました。これまでに修士学位を取得した修了生たちは、各々、英語教育、日本語教育、あるいは「ことば」と情報に関連するさまざまな分野で活躍しています。また、国内外の博士課程に進学し、この分野の研究をさらに深めようとしています。

2007年以降、文部科学省 GP として採択された「国際通用性を高めた言語教育専門家の養成」に力を入れて取り組んできました。また2010年以降は院生を巻き込んだ研究科プロジェクトとして、脳科学による言語処理理解研究と日本語教育研究の為のコーパス構築に取り組んでいます。しかし、常に化する情勢に機敏に対応し、そのときどきの社会的ニーズに適合できるよう、教育・研究を刷新していかなければ、真にその存在意義を維持できるものではありません。院生をはじめ関係分野・各方面からの積極的なご意見を頂きながら、本研究科は改革を継続し、これからも大きな役割を担っていける存在でありたいと願っています。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

言語教育情報研究科の目的は、国際的な通用性を持った言語教育の専門家、また言語情報学と言語コミュニケーション学の専門的な知識と実践的な応用能力を身につけた高度専門職としての人材を養成することにあります。この目的を達成するために、本研究科では、以下の各コース・プログラムを設置して、意欲的に学ぼうとする人を求めています。

■ 1. 言語教育学コース・英語教育学プログラム

今日の日本の学校・大学などの教育機関における英語教育専門家において求められる高度な英語コミュニケーション能力と、国際水準に見合う英語教育学の理論と実践的な応用能力を獲得した高度専門職を養成します。そのために、高い英語運用能力を有し、その英語力を生かした教職などの高度専門職を目指す意欲的な人材を求めます。

■ 2. 言語教育学コース・日本語教育学プログラム

日本語教育を必要とする人は現在の国内外において多様化しています。その学習者のニーズに応じられる深い専門性と、実践に裏付けられたコミュニケーション能力を兼ね備えた高度専門職の養成を目指しています。そのために、日本語に対する強い関心を持つとともに、多様な学習者に応じられる柔軟性、積極性を持った人材を広く求めています。

■ 3. 言語情報コミュニケーションコース

英語または日本語を対象に、当該言語の構造や機能を言語学・言語情報学的知見とスキルを生かして解明することのできる人材、また言語コミュニケーションや異文化コミュニケーションなど社会言語学の知見と実践的な応用能力を獲得した高度専門職を養成します。そのために、言語としての英語または日本語に強い関心を持ち、ICT(情報通信技術)を活用した言語にかかわる高度専門職を目指す意欲的な人材を求めます。

言語教育情報研究科についての詳細は [立命館 言語教育情報](#) [検索](#)

2つのコース

言語教育学コース

[英語教育学プログラム]

カナダまたはオーストラリアでTESOL

新しい時代に適合する英語教員の養成

国際的な水準に見合う英語教育・教授資格であるTESOL資格取得プログラムをカナダのプリティッシュ・コロムビア大学/オーストラリアのサザン・クィーンズランド大学と共同開発し、英語教育における国際通用性をめざす高いレベルの資質を備えた教員を養成しています。さらに、日本の教育現場の諸課題を克服するための学校教育臨床研究分野の科目も配置しています。



[日本語教育学プログラム]

国内外の日本語教育機関での教育実習

世界を舞台に活躍する日本語教員の養成

国内外の大学等の日本語教育機関での教育実習を組み入れて、理論と実践を結んだカリキュラムにより、高い専門性に裏付けられた日本語教員の養成をめざしています。学部新卒生、現職教員や社会人、留学生など、年齢、国籍、出身学部異なる多様な人材を受け入れており、個性的なメンバーが豊かな知識・経験とフレッシュな感性を活かして学びあっています。

言語情報コミュニケーションコース

[英語を研究対象]

「ことば」を研究

—「ことば」「コーパス」「コミュニケーション」—



社会的機能の観点から言語を分析する社会言語学や言語コミュニケーション学分野の科目が学べます。また、コーパス言語学(英語・日本語)の手法を利用し、コンピューターによる言語の分析方法を初歩から習得でき、言語研究のみならず、教材開発や英語・日本語教育にまで応用することもできます。

※本コース所属の場合でも、カナダまたはオーストラリアでのTESOLプログラムに参加可能です。



[日本語を研究対象]

「ことば」を研究

—「ことば」「コーパス」「コミュニケーション」—

カリキュラム紹介

[2015年度]

*一部の科目(演習など)を除いて、どのコース・プログラムに所属していても、各コース・プログラムの科目を履修することが可能です。



先端総合学術研究科 [5年一貫制博士課程]

Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences



4つのテーマ領域と担当教員の研究テーマ

《公共》 21世紀における公共性

国民国家の法的擬制である公/私の境界の変容過程をたどり、分配的正義および経済システムの問題を視野に入れながら、国民国家に替わるシステムの可能性を探ります。

- 正義とデモクラシーの政治哲学 井上 彰
- ジェンダー研究/ケアの社会学 上野千鶴子
- 平等と自由/自由の平等 立岩 真也
- 身体とグローバリゼーションの社会学 美馬 達哉※

※2015年度後期着任

《共生》 共生の可能性と限界

多大な犠牲を伴う不完全な共生実験であった人間の歴史を批判的に遡りつつ、未来に向けて、そうした犠牲を伴わない生命と生活の可能性を構築する方途を探ります。

- 狡知、アナザーワールド、そしてLiving for Todayの人類学的探求 小川さやか
- ままならない身体をめぐる文学 西 成彦
- 社会は共生のモデルとなりうるか? ポール・デュムシエル
- 人類学的思考の歴史 渡辺 公三

4つの
テーマ領域
核心としての
倫理

《生命》 争点としての生命

ゲノム分析の進展、生命操作をめぐる新しい事態、自然破壊の急速な進行・・・などが投げかける倫理的諸問題を整理して、新しい生命・環境の理解と表現の可能性をひらきます。

- 生殖と病の哲学 小泉 義之
- 生命科学・支援技術の歴史と倫理 松原 洋子

《表象》 文化と芸術の表象論的分析

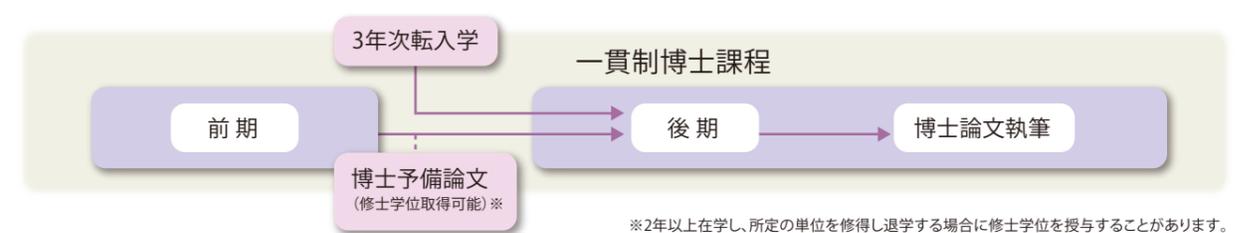
文化と芸術の諸事象を表象論的観点から読解・分析します。技術、歴史、思想、実践への理解を主軸とし、創造と受容の場、諸々の文脈、メディアといった問題系へとアプローチします。

- 現代アートとミュージアムの戦略 竹中 悠美
- 現代哲学と批評のあいだで思考する 千葉 雅也
- 遊びとゲームの感性的論理 吉田 寛

一貫制博士課程

先端総合学術研究科では、領域横断的なカリキュラムによる講義・演習から構成されている一貫制博士課程を採用しています。大学院生は1.2年次に開設される「プロジェクト予備演習」に参加しながら博士予備論文の仕上げに専念します。この間、個別プロジェクト、研究会などに准メンバーとして参加します。博士予備論文は、プロジェクト研究に正式に共同研究者として参加するための資格審査の材料となります。博士予備論文の審査に合格する

と、その院生は正式な共同研究者として、4つのテーマ領域からなる「プロジェクト演習」を中心として、立命館大学の研究所・センター群によって構成されている研究会など多様なプロジェクト研究そのものの運営にあたって中核的な役割を果たすことになります。すなわち、計画的に研究を推進する日々の活動の一翼を担いつつ、研究会や学外の諸学会等における成果発表を着実に積み重ねていくことになります。



【2013年度3月末学位申請者 博士論文題目】

福祉的貸付の歴史と理論／死刑執行の歴史と理論—日本の死刑制度存廃論批判—／ALSの人工呼吸療法を巡る葛藤—ALS/MND国際同盟・日本ALS協会の動向を中心に—／森と土地からなる「現在」—パナマ東部先住民エンペラの同時代史に関する人類学的考察—／〈日系人〉の生成と動態—集団カテゴリーと移民コミュニティの歴史人類学—／性同一性障害からトランスジェンダーへ—法・規範・医療・自助グループを検証する—／現代フランスにおける死産児への法的および医学的対応—死にゆく胎児に関する生命倫理的検討—

【2014年度3月末学位申請者 博士論文題目】

変身装置としての「ほりもの」—イレズミの絵画的・文学的表象分析—／生体肝移植ドナーの意味付与—肯定感と否定感を分かつもの—／日本における不妊医療と非配偶者間人工授精の導入をめぐる歴史研究／音楽作品の存在論的探求—分析美学の観点から—／近代日本における乳児の生命保護—婚外子の生存保障としての養子制度に関する歴史研究—／戦間期ポーランドのユダヤ系文学研究—異文化接触と複数言語使用の観点から—／日本における犯罪被害者の法的救済の歴史と理論／視力回復手術を受けたステューブンス・ジョンソン症候群による中途失明者のナラティブにおける「治療」についての障害学的研究—当事者性を活用したインタビュー調査から—／所与の選択—こどもの文化選択をめぐる規範理論—／共依存の倫理—精神分析と臨床心理を越えて—／花街・祇園町歴史人類学的研究—継承／変貌する〈芸〉—

◎ 人類の課題に新たな「知」をもって挑む、知の探究者へ。

「核心としての倫理」を軸に、公共、生命、共生、表象のテーマのもとに新しい研究領域を創出します。

20世紀に人類は多大な物質的豊かさを獲得したと同時に、自らを破滅させることも不可能ではない破壊力を生み出しました。21世紀に引き継がれた諸問題の解決に向かうために、「核心としての倫理(コア・エシックス)の問い」を中心に、「公共」「生命」「共生」「表象」の4つのテーマ領域から人類共通の課題にアプローチするのが本研究科です。

プロジェクト型大学院

先端総合学術研究科は、開設以来「プロジェクト型大学院」として、研究所・センター群で展開されている様々な個別研究プロジェクト、文部科学省や日本学術振興会により採択されている研究などと連携しつつ、プロジェクトを遂行しながら教育研究を行っています。

充実した研究支援体制

ライティング指導室には、研究指導助手が常駐しており、以下の業務を行っています。

- ・論文執筆などの研究相談。
- ・先端総合学術研究科主催のシンポジウム・研究会の企画・運営に関わる業務など。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

先端総合学術研究科先端総合学術専攻は、「プロジェクト型大学院」としての教育研究体制のもと、従来のディシプリンの枠組みを超えた複数の分野と果敢に連携し共同する試みを展開するため、大学院における教育を現実の複雑さの水準に見合ったものに引き上げるだけでなく、世界の動向に一步先んじつつ、今後必要とされる新しい人材を、さまざまな分野に向けて輩出することを目的としています。このように、テーマとなる分野の専門的かつ最新の情報に精通し、さらに必要な情報を収集し総合的に判断する能力、明確な判断の上に立って一定のプロジェクトを設立し、問題解決の方向を人的なネットワークと協力関係を通して切り拓いていく力が本研究科において形成しようとする研究者の能力であり、そのためにも自身のテーマを自らの力で徹底的に思考することができる人材を求めています。

先端総合学術研究科についての詳細は [立命館 先端 検索](#)

経済学研究科

Graduate School of Economics



◎ 経済学をベースとした「知のプロフェッショナル」を養成します。

経済学研究科は、1950年に修士課程を創設し、1964年には博士課程（博士課程後期課程）を開設しました。この間、大学・有力企業・官庁・税理士業界等に多くの優れた人材を輩出し、社会的に高い評価を得ています。「経済学の分析・調査・研究力量を有した高度専門職業人や研究者の養成を目指す」という理念のもと、前期課程および後期課程においてそれぞれ人材育成目的・教育目的を設定し、大学院生の研究指導を行っています。

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

- 前期課程 経済学研究科は、経済学とその応用分野について深い専門知識および高い国際コミュニケーション能力を備えた、研究者や高度専門職業人を養成することを目的としています。前期課程では院生の希望する研究分野、志望する専門職領域についての多様なニーズにこたえるために、日本語による①経済理論・政策コースと②税理・財務コース、英語による③Master's Program in Economic Development (MPED) の3つのコースを設けています。各コースでの人材育成の目標を達成するため、入学時点において経済学およびその応用あるいは周辺領域について、一定水準以上の専門知識とそれぞれの研究遂行のために必要な英語によるコミュニケーション能力を有し、独創的な視点から研究を進める研究者、高度専門職を目指す院生、本研究科での学習・研究の成果を自らの仕事の中で応用する意欲を持った方を求めています。
- 後期課程 人材育成の目標を達成するために、前期課程での研究を通じて経済理論とその応用領域における深い専門知識と優れた分析手法を身につけ、自らの知的関心と構想力を駆使して経済現象を分析・研究し、国際的に評価される独創的な研究成果を生み出していく力量を潜在的に有している方を求めています。

経済学研究科についての詳細は [立命館 院 経済](#) [検索](#)

博士課程前期課程

前期課程では、「経済理論・政策コース」「税理・財務コース」「Master's Program in Economic Development (MPED)」の3コース制とし、それぞれの人材育成目的の下、少人数による研究指導やカリキュラムの充実を図っています。外国人留学生を積極的に受け入れ、特にMPEDは留学生を中心としてすべて英語による授業を行っています。世界的に高まっている高度なスキルを持つ人材へのニーズにこたえるため、国際通用力の高い論理的思考力と構想力および創造性を持った人材を養成しています。

《経済理論・政策コース》

さまざまな経済問題を深く研究し、高度な論理的思考力、調査分析能力、問題解決能力、政策提言能力を育成します。経済学のスペシャリストとして、民間企業や官庁で中心となって活躍できる人材を養成します。

知のプロフェッショナルになる

《税理・財務コース》

経済学を基礎としながら、法学や経営学との境界領域を含む教育を行い、公認会計士、税理士、企業における税務・企業財務・会計のスペシャリストを養成します。税理士の資格取得を支援し、時代のニーズに合った高度専門職業人を育成します。

《Master's Program in Economic Development (MPED)》

すべて英語による国際標準の経済学教育を行い、経済学を基礎とする問題解決能力、政策提言能力を身につけ、世界を舞台に活躍する国際的・高度専門職業人を養成します。途上国を中心に多くの国から多数の留学生を受け入れ、国際色豊かな教育を行っています。

博士課程後期課程

後期課程では、広い視野と深い専門性および優れた独創性を持ち、新たな領域の研究分野を自ら切り開いてゆくことができる高い研究力量を備えた研究者を養成しています。この結果さまざまな大学や研究機関に多くの人材を輩出しています。

コース・カリキュラム紹介

	経済理論・政策コース	税理・財務コース	MPED
■ 博士課程前期課程 (主な科目)	社会科学概論 ミクロ経済理論 マクロ経済理論 計量経済学 経済史 経済政策 経済理論	税法 租税制度論 国際課税 租税各論 商法・会社法 税務会計 租税政策	Microeconomics Macroeconomics Econometrics Japanese Economy Development Economics International Economics Financial Economics Applied Economics Elementary Seminar Research Seminar Special Seminar
	財政学 国際金融 経済発展論 経済学特別演習	金融論 国際経済論 応用経済研究 経済学研究演習	
■ 博士課程後期課程 (主な科目)	研究演習		特別講義

スポーツ健康科学研究科

Graduate School of Sport and Health Science



◎スポーツ健康科学分野の『未来を拓く』プロフェッショナルを養成。

～優れた教授陣と最先端設備による高度な研究力とリーダーシップ力の鍛錬～

2020年に東京オリンピックの開催が決定し、人々の健康志向やスポーツへの関心がますます高まっている中、私たちの周りには不正確な情報が氾濫しています。このような状況から、科学的根拠に基づいた運動法や身体活動に関する情報、スポーツ競技力の向上を目指したトレーニング法などの研究推進は、現代社会の大きなニーズとなっています。

博士課程前期課程は、「身体運動科学領域」と「スポーツ人文社会科学領域」の2つの領域に分かれ、スポーツと健康を科学的視点で捉えた、総合的・学際的な教育・研究を行います。スポーツ健康科学分野の専門知識と共に、高度な実践力とリーダーシップを備え、社会の発展に寄与する高度専門職業人ならびに研究者を養成します。

博士課程後期課程は、1専攻としており、各分野において世界に通じる研究成果をあげ、実践に応用できる研究者を養成します。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

スポーツ健康科学の基礎的素養を備え、総合的・学際的な教育・研究を通じて、社会の発展に貢献することができるために、以下のような事について学術的な興味を持ち、得た知識を社会に広く還元したいという意欲を持つ人材を求めます。

■ 前期課程 【関心・意欲】

1. スポーツ健康科学の社会的な諸課題の解決について、強い関心を有する者。
2. 総合的・学際的なアプローチを用いて新たな研究分野を切り開こうとする者。
3. 理論と実践を通じた研究活動を展開し、社会に還元する意欲のある者。

【基礎的要素】

1. スポーツ健康科学を構成する学問の基礎知識を有し、論述、口述などにより、自らの考えを論理的かつ明快に表現できる。
2. スポーツ健康科学に関連した記事・論文等の英文読解力、ライティング力を備えているか、英語に関する基礎的な力を有する。
3. スポーツ健康科学に関連した現場での実践経験を有する、もしくは関心がある。

■ 後期課程

1. スポーツ健康科学に関わる確かな知識と基礎的な研究能力を有する者。
2. 新たな学術領域や複合領域を開拓するとともに、研究成果を実践に応用する意欲や独創性ある研究を進める意欲を持った者。

スポーツ健康科学研究科についての詳細は [立命館 院 スポーツ](#) [検索](#)

スポーツ健康科学研究科の構成

《博士課程前期課程：1専攻・2領域》

《博士課程後期課程：1専攻》

スポーツ健康科学専攻

身体運動科学領域

スポーツパフォーマンスや健康の維持・増進を科学的根拠に基づき解明する教育・研究を行う。

スポーツ健康分野の教育・マネジメント力量を向上させる教育・研究を行う。

スポーツ人文社会科学領域

【人材育成目標】

スポーツ健康科学分野の専門的かつ高度な実践力と研究力をもつとともに、研究成果を社会に発信できる専門職業人ならびに研究者の養成を目的とします。

スポーツ健康科学専攻

【人材育成目標】

スポーツ健康科学分野において先端の研究成果をあげ、その成果を実践に結びつけるとともに、研究プロジェクトなどにおいてリーダーシップを発揮することができる研究者の養成を目的とします。

「研究力」「実践力」「リーダーシップ」「スポーツ」「健康」分野の専門職業人・研究者「コーチング力」を培う

想定される進路

- 中学校・高等学校教諭(保健体育など)・スポーツ指導者・健康運動指導士
- WHOなどの国際専門機関・マーケティングマネージャー・スポーツビジネス
- スポーツ・健康関連企業および技術開発・スポーツ健康政策部局の行政職
- シンクタンク
- 大学教員・企業研究所など



スポーツパフォーマンス測定室



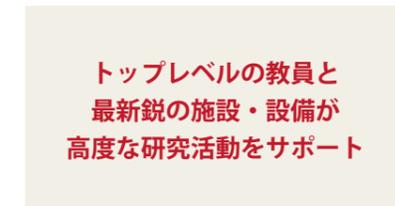
トレーニング指導実習室



高機能画像撮影室(MRシステム)



栄養調理実習室



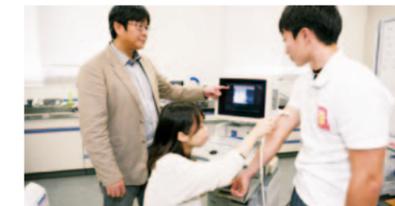
トップレベルの教員と最新鋭の施設・設備が高度な研究活動をサポート



細胞機能分析実験室



低酸素実験室



スポーツ健康指導実習室



M1研究構想発表会

理工学研究科

Graduate School of Science and Engineering



◎ Powering the Future

-The Structure of the Future-

地球規模での環境問題など、私たちの周りには人類の生存に関わる重要な問題が山積し、理工学分野の研究はこれらの問題解決と密接につながっています。理工学研究科が目指すのは、専門領域における問題設定・解決能力をもって科学技術の発展に寄与し、社会を健全な形で維持・改善していくために尽力することです。社会が抱える多様な問題の解決に貢献すべく、理工学の専門領域における高度な知識と技術に加え、創造的な発見・研究能力を兼ね備えた研究者、高度専門職業人の育成を目指しています。

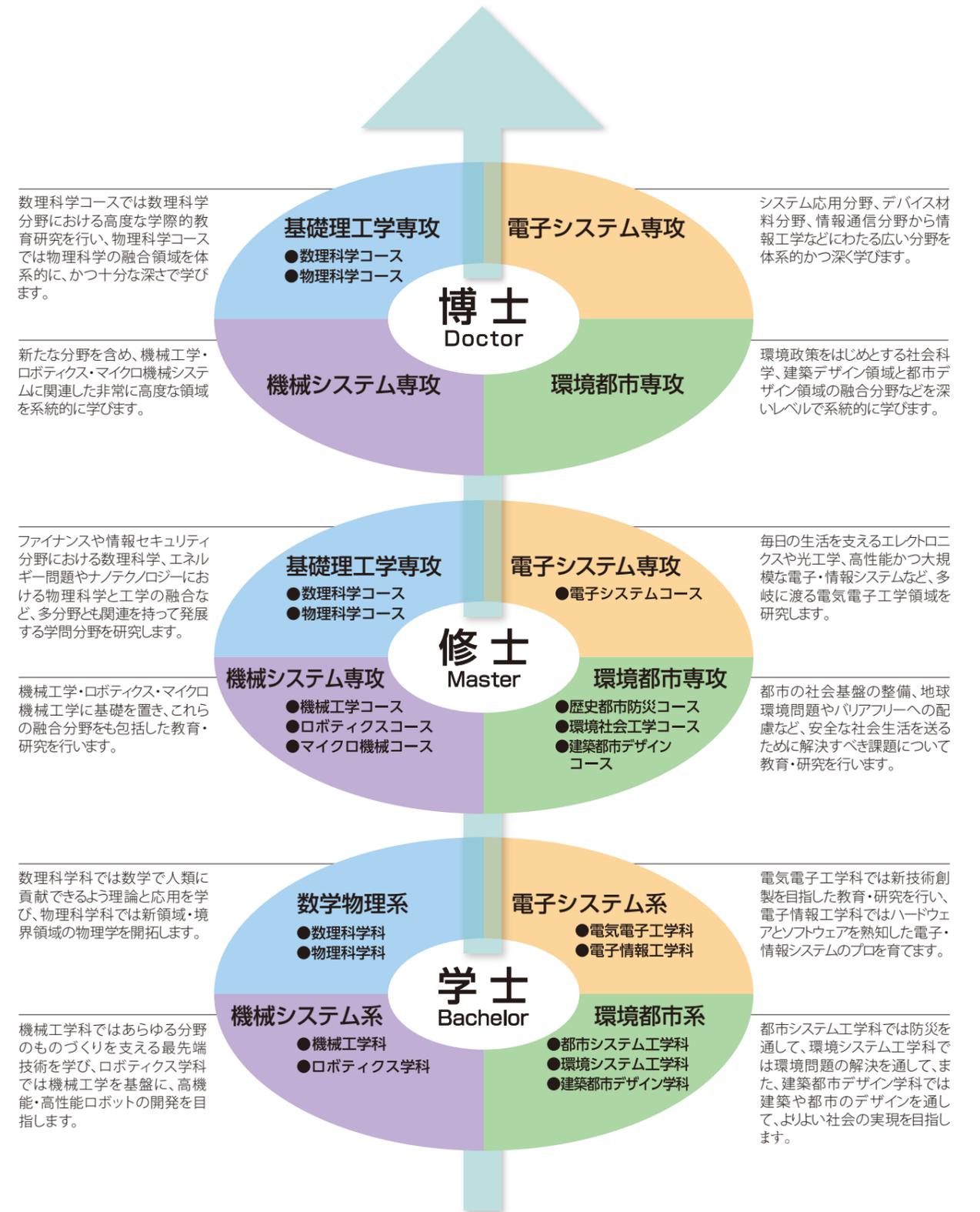
入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

- 博士課程前期課程 博士課程前期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者の受入を行います。
 - ・自然科学および専門領域における基礎的な学力を有する者。
 - ・国内外における科学・技術を理解するための語学力を有する者。
 - ・研究者・技術者としての責任を理解した上で、専門領域における問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者。
- 博士課程後期課程 博士課程後期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者の受入を行います。
 - ・自然科学および専門領域における確かな知識と研究能力を有する者。
 - ・日本語による論理的な文章力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力および外国語によるコミュニケーション能力を有する者。
 - ・研究者・技術者としての責任を自覚した上で、社会における問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えることに強い意欲を有する者。

理工学研究科についての詳細は [立命館院理工](#) [検索](#)

理工学研究科の理念

理工学研究科は、理工学の専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者、高度専門職業人を養成することを目的としています。



情報理工学研究科

Graduate School of Information Science and Engineering



◎ITの最先端領域における教育と研究を展開。

産業界におけるIT人材需要はますます高まり、教育機関への期待は大きくなるばかりです。こうした社会の要請に応えるため、2012年4月、理工学研究科から独立した新しい研究科として誕生しました。情報理工学の幅広い専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者や高度専門職業人の育成を目的としています。各コースにこれまでの取り組みを活かした国際プログラムを設置。積極的に留学生を受け入れることで、日本人学生と外国人留学生が共に研究を進め、国際社会で活躍できるグローバルな力を培います。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

■ 博士課程前期課程 博士課程前期課程では、人材育成目的を踏まえ、高度情報化社会を支える基盤となる情報システム・情報コミュニケーション分野または情報科学技術を基盤とした人間・知能に関するメディア情報・知能情報分野に問題意識を持ち、その観点から明確な目的意識と情報倫理観を持って今後のより良い社会を構築していくことに興味や関心がある者の入学を期待する。

- ・ 博士課程前期課程において研究を進める上で必要となる基礎的学力を身につけている者
- ・ 自己の考えや研究成果を学内外で発表することに強い意欲を持つ者
- ・ グループで協調して研究活動を進めることができる者
- ・ 問題解決能力、創造的発見能力を高めることに強い意欲を持つ者

■ 博士課程後期課程 博士課程後期課程では、人材育成目的を踏まえ、以下のような能力を持った者の入学を期待する。

- ・ 博士課程後期課程入学前の基礎的研究を踏まえ、自立した研究能力を身につけている者
- ・ 研究成果の学内外での発表や、外国の研究者・技術者との交流に強い意欲を持つ者
- ・ 自らが中心となって研究プロジェクトを円滑に遂行ができる者
- ・ 総合的、専門的な問題解決能力、創造的発見能力を高めることに強い意欲を持つ者

情報理工学研究科についての詳細は [立命館 院 情報理工](#) [検索](#)

課程とコース

MASTER 博士課程前期課程

情報理工学専攻

■ 計算機科学コース

計算機科学コースでは、計算機アーキテクチャやソフトウェア技術、情報ネットワーク技術を中心にヒューマンインタフェースや認知工学といった分野の教育研究を行います。

■ 人間情報科学コース

人間情報科学コースでは、言語・音声・画像などのメディア処理技術やバーチャルリアリティ、知能システムや人間工学、知能ロボティクスといった分野の教育研究を行います。

博士課程前期課程
情報理工学専攻

計算機科学コース
人間情報科学コース

博士課程後期課程
情報理工学専攻

DOCTOR 博士課程後期課程

情報理工学専攻

情報理工学専攻では、研究科に相応しい高度な専門的実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携や国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。



修了要件とカリキュラム

前期課程

科目分野	必要単位数	履修方法
共通科目	4単位以上	選択
固有専門科目	10単位以上	選択
特殊研究科目	16単位	必修
自由科目	—	選択
合計	30単位以上	

「グローバル科目」を2単位以上修得すること

後期課程

科目分野	必要単位数	履修方法
特別研究科目	8単位以上	選択
実習・演習科目	—	選択
自由科目	—	選択
合計	8単位以上	

固有専門科目・特殊研究科目 (前期課程)

《計算機科学コース》

インテリジェントインタフェース特論
Webインテリジェンス特論
グローバルソフトウェア工学特論 ★
計算機科学特論 ★
計算機システム特論
言語メディア特論
コンピュータビジョン特論
システムプログラム特論
情報セキュリティ特論
情報通信科学特論 ★
ソフトウェア工学特論
知能機械特論
ヒューマン・ファクターズ特論 ★
分散システム特論
マルチエージェントシステム特論
モバイルシステム特論
ワイヤレスネットワーク特論
システムLSI応用特論1~3
システムLSI設計特論1~2
情報理工学特殊研究1~4

《人間情報科学コース》

インテリジェントインタフェース特論
Web インテリジェンス特論
エンタテインメントコンピューティング特論 ★
音声音響メディア特論
画像解析と機械学習特論 ★
画像処理特論 ★
感覚知覚メディア特論
言語メディア特論
コンピュータビジョン特論
システム制御特論
人工知能特論 ★
生体情報処理特論
知能機械特論
知能システム特論
脳機能情報処理特論
バイオエンジニアリング特論
ビジュアルコンピューティング特論
ヒューマンインタフェース特論
情報理工学特殊研究1~4

★グローバル科目 (英語開講科目)

特別研究科目 (後期課程)

情報理工学特別研究1~6



情報理工学国際プログラム(留学生)

計算機科学コース・人間情報科学コースに、外国人留学生を日本語基準と英語基準で受け入れます。このプログラムには、英語で開講する科目や企業と連携したワークショップなどを配置しています。いずれの科目も日本人学生と留学生とが、共に学びながら、国際的に活躍する技術者を養成します。

留学生の主な出身国 (2012年度~) (理工学研究科 情報理工学専攻を含む)

中華人民共和国	48人	サウジアラビア王国	3人	ミャンマー連邦共和国	1人
ベトナム社会主義共和国	17人	マレーシア	2人	モンゴル国	1人
タイ王国	14人	メキシコ合衆国	2人	ルワンダ共和国	1人
インドネシア共和国	6人	アメリカ合衆国	1人	ロシア連邦	1人
大韓民国	5人	バングラディッシュ人民共和国	1人		

グローバル人材の育成

■ 海外IT研修プログラム: 高い英語運用能力をもつだけでなく、グローバルな視点から多面的に物事をとらえる能力は、国際的に活躍する技術者・研究者にとって必要不可欠です。国際社会を舞台に活躍できる人材育成を目標に掲げている当研究科では、一定の英語運用能力を有する学生を対象に、長期休暇期間を利用した海外IT研修プログラム(インド)を展開。日常生活から学びに至るまですべてを英語で行うトータル・イマージョン・スタイルを採用し、より高いレベルの英語運用能力・異文化適応能力を養います。

■ グローバルIT人材育成プログラム: 2012年度に採択された「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」において、特有の科目群として設定されているプログラムです。大学院博士課程前期課程において、講義と実習を組み合わせることにより、実践的・系統的学習を行い専門知識と技術を修得します。また、日本人学生と外国人留学生とが合同で学ぶことにより、グローバルな視野と異文化理解力の修得を目指します。

■ グローバルIT人材育成リーディングプログラム『みらい塾』: 文部科学省「スーパーグローバル大学等事業」に採択されたプログラムです。修了時に身につけておくべき能力を、情報科学技術の専門知識、英語運用能力、社会人基礎力、異文化理解力と設定。学部と大学院博士課程前期課程までの6年間を3つのステップに分けて、継続的・系統的に能力形成を目指します。

生命科学研究所

Graduate School of Life Sciences



2015年4月バイオリンク竣工

◎21世紀における全人類的課題の解決に貢献できる人材を育成。

近年は生命科学分野の高度な能力を備えた人材が求められ、大学院に大きな期待が寄せられています。生命科学研究所は、こうした社会の要請に応えるべく2012年4月に誕生しました。前期課程は応用化学、生物工学、生命情報学、生命医科学の4つのコースからなり、専門領域を学びながら、さらに境界・関連領域の知識も身につけることができます。近接する分野との融合にも積極的に取り組み、他の研究科や医科大学、産業界とも連携。幅広い知識と高い専門性を修得することで、人類に共通する課題の解決に貢献できる能力を養います。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

- 前期課程 博士課程前期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者の受入を行います。
- 自然科学および専門領域における基礎的な学力を有する者。
 - 国内外における科学・技術を理解するための語学力を有する者。
 - 研究者・技術者としての責任を理解した上で、専門領域における問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者。



- 後期課程 博士課程後期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者の受入を行います。
- 自然科学および専門領域における確かな知識と研究能力を有する者。
 - 日本語または英語による論理的な文章力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を有する者。
 - 研究者・技術者としての責任を自覚した上で、社会における問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えることに強い意欲を有する者。



生命科学研究所についての詳細は [立命館 院 生命科学](#) [検索](#)



課程とコース

MASTER 博士課程前期課程 生命科学専攻

応用化学コース

応用化学コースでは、物理化学・無機化学・分析化学・有機化学・生化学などを基盤として、物質の機能を解明するための、また、新物質の創製を実践するための化学的理論と技術を幅広く学びます。材料化学からエネルギー、生体関連物質まで、幅広い分野で研究を展開します。

- [キーワード]
- 新物質
 - ナノテクノロジー
 - 環境分析
 - エネルギー変換
 - 機能材料

生物工学コース

生物工学コースでは、生化学、分子生物学、微生物学などを基盤とし、環境、食料、資源、エネルギーに関連する生物工学理論や技術を幅広く学びます。また、生物機能、生態系の構造・機能の解析や生物由来生理活性物質の解明等の基礎研究や、これらを基盤とした環境、食料、資源、エネルギーに関する応用研究を展開します。

- [キーワード]
- 微生物
 - バイオエネルギー
 - 分子生物学
 - 環境浄化
 - 生物資源

生命医科学コース

生命医科学コースでは、多岐に渡る基礎医学の先端領域とその融合領域を学び、未知の生命現象や様々な疾患の発症機構を解明します。更に、先端技術で開発された医薬品などの新規医療技術の適切な評価と社会への応用方法も学び、広く生命医科学研究を展開します。

- [キーワード]
- ゲノム医学
 - テラーメイド医療
 - 遺伝子治療
 - 予防健康医学

生命情報学コース

生命情報学コースでは、コンピューター(情報科学)を利用して、生命活動の仕組みを解明するため、その基礎となる生命科学、情報科学、生物機能の解析技術に関する専門知識を幅広く学びます。その上で、遺伝情報、タンパク分子構造—機能相関、生体機能などの数理解析に関する研究を行い、生命科学、医学薬学、食品、情報技術に関連した研究を展開します。

- [キーワード]
- システムバイオロジー
 - ゲノム解析
 - 情報科学
 - バイオインフォマティクス

DOCTOR 博士課程後期課程

生命科学専攻

生命科学専攻では、博士課程後期課程に相応しい高度な専門的実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携、国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。

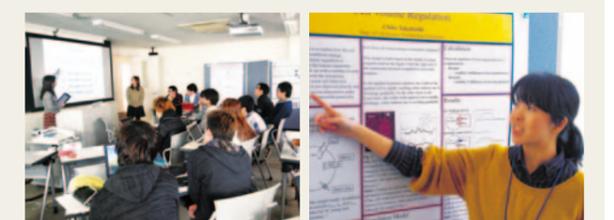


生命科学国際プログラム(9月入学・英語基準)

前・後期課程ともに、外国人留学生を英語基準で受け入れます。授業は全て英語で行われ、ライフサイエンスに関する幅広い知識と高い専門能力の習得を目指します。

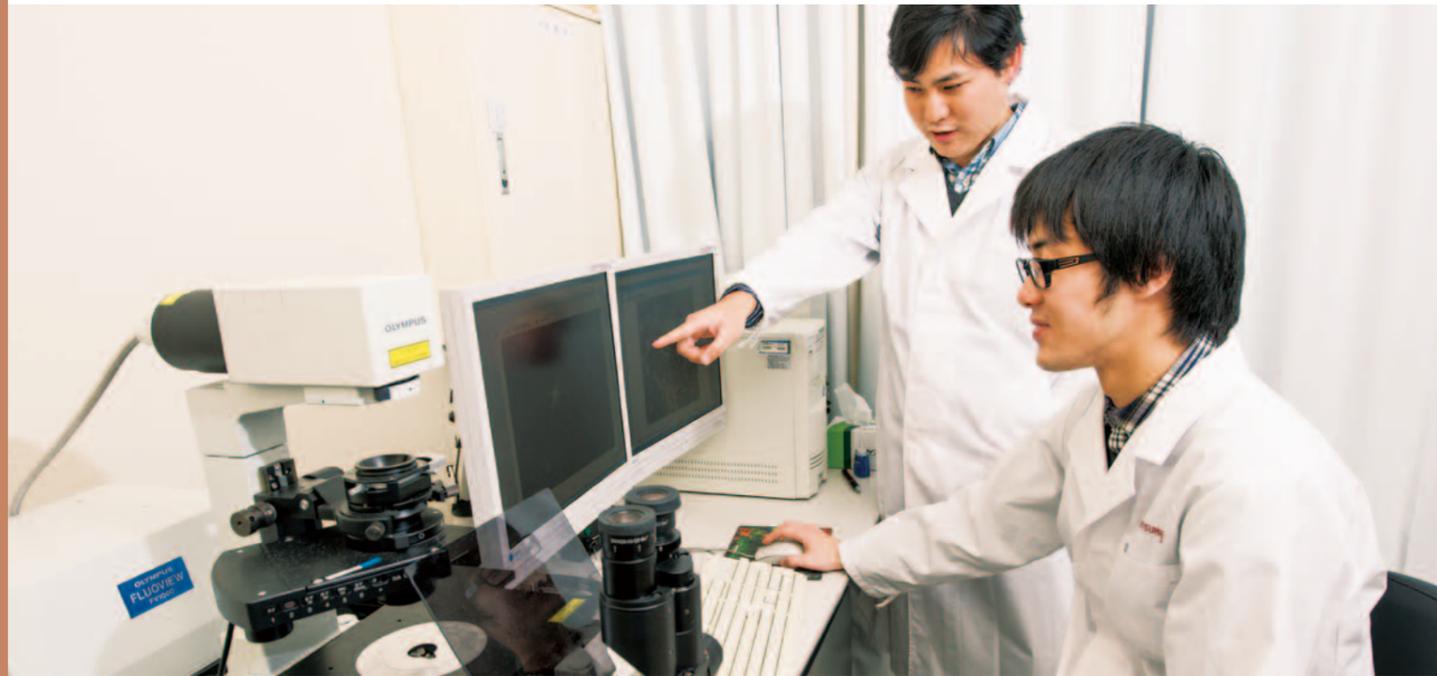
プロジェクト発信型英語プログラム

生命科学研究所では、国際学会での論文発表やポスターセッションを想定した英語力を涵養します。英語での論文作成練習や英語でのポスターセッション練習といった、大学院生に求められる英語を駆使した研究発表力を培います。



薬学研究科 [4年制博士課程]

Graduate School of Pharmacy



◎命に関わる薬のプロとして、高度な臨床能力や研究能力を備え、先導的役割を果たせる人材を育成します。

21世紀を迎え、ライフサイエンス分野や医工学分野の研究の進歩と技術革新に伴い、医療分野における診断技術や治療法・予防法が日々高度化しています。また一方で、我が国は超高齢社会となり、病院診療から在宅診療の流れが進むなど、医療をめぐる環境も大きく変化しつつあります。

薬学は主として薬という面から医療に貢献する学問分野ですが、こういった医療の高度化と社会の変化に伴い、薬学分野においても高度な人材の必要性が高まっています。例えば、チーム医療の現場で医師に処方提案ができる薬剤師、在宅医療に参加し地域住民の健康を守る薬剤師、医療行政や製薬企業の開発部門でpharmacist-scientist(科学者としての素養を備えた薬剤師)として活躍できる人材、これからの薬学教育・研究を担う人材などが求められているのです。

立命館大学大学院薬学研究科は、このような社会の要請に応え、6年制の薬学部を基盤とし、薬学の専門知識と研究力を備え、使命感、責任感、倫理観を有する高度な薬剤師、医療人、研究者として、地域や社会に貢献できる有為な人材を育成します。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

薬学研究科では、医療人としての高い倫理観と問題解決に対する意欲を持ち、高度な専門知識、先端的な研究を通して高度医療や医薬品開発の場での貢献、活躍を目指す意欲ある者を求めます。



薬学研究科についての詳細は [立命館院 薬学](#) [検索](#)

2つの分野

次の2つの分野を設けて教育・研究を進めます(研究内容や修了後のキャリアに応じていずれかの分野を選びます)。

医療薬学分野

医療現場における医薬情報管理、リスクマネジメントや感染制御、医薬品の吸収・分布・代謝・排泄および毒性発現などの一連の動態を体系的に学びます。

病態生理解析分野

病気の成因とそれに対する薬物作用や、創薬と人の健康について理解するとともに、医薬品や環境中の化学物質の生体への影響評価を学びます。



人材育成像



- チーム医療の中で医師に処方提案を行うなど、医療分野における高度な職能を有する薬剤師(医療薬学分野)
※本課程を修了しただけでは、各認定薬剤師や専門薬剤師になる為の認定資格をとることはできません。
- 超高齢社会を迎える我が国の地域医療やセルフメディケーションに貢献できる薬剤師(医療薬学分野)
- 医療行政や製薬会社の開発部門などにおいて、pharmacist-scientist(科学者としての素養を備えた薬剤師)として活躍できる人材(医療薬学分野・病態生理解析分野)
- 薬学部をはじめとする医薬系の教育研究機関において、将来の教育・研究を担う高い教育力と研究能力を有した人材(医療薬学分野・病態生理解析分野)

薬学研究科博士課程の修了要件およびカリキュラム

〈専門科目〉14単位以上を修得

選択した分野科目から10単位以上、
選択しなかった分野科目から4単位以上を修得

医療薬学分野科目

科目名	単位
医療情報分析学特論	2
医薬品安全評価学特論	2
創剤学特論	2
病原微生物学・感染症学特論	2
分子生物薬剤学特論	2
臨床治療学特論	2
高度薬剤師養成演習1	3
高度薬剤師養成演習2	3
高度薬剤師養成演習3	3

病態生理解析分野科目

科目名	単位
細胞工学特論	2
上皮バリアと輸送特論	2
生活習慣病特論	2
天然薬物学特論	2
副作用学特論	2
分子病態学特論	2

〈特別研究科目〉16単位を修得

科目名	単位
薬学特別研究1	4
薬学特別研究2	4
薬学特別研究3	4
薬学特別研究4	4



論文審査・最終試験

博士学位授与



薬学研究科の特色

社会人学生への配慮

事前に勤務の状況についてヒアリングを行い、学生の状況を十分に把握した上で、平日の18時以降および土曜日を使って授業および研究指導を行うなど履修計画についての配慮を行います。

近隣の医科大学との連携プログラム

高度な職能を有した薬剤師として必要な医療現場での知識や技能の習得、臨床開発や臨床評価などの研究のため、滋賀医科大学・関西医科大学との医薬連携による科目「高度薬剤師養成演習1,2,3」を提供しています。

法科大学院 [法務研究科]

School of Law



◎市民的感覚と地球的な視野を備えた「地球市民法曹」を養成。

私たちは、立命館大学の伝統と実績、総合性・多様性と進取の精神を受け継ぎ、「21世紀地球市民法曹」の養成を目指しています。「21世紀地球市民法曹」とは、グローバルな視点と鋭い人権感覚を備え、様々な分野・専門領域において活動する法曹を意味します。グローバル化の進展によって、世界をフィールドに活躍する法曹が求められているだけでなく、地域に奉仕する法曹であっても、身近に起こる法的問題を地球規模の広がりの中でとらえ対応することが求められます。市民の立場に立って地球的視点で活動できる法曹こそ、今もっとも必要とされているのです。また、社会の法に対する需要が増大、多様化する21世紀においては、法曹は、国際取引、知的財産権、税、環境保護、人権擁護等々、なんらかの専門分野を持つ必要があるでしょう。さらに、今後は、企業や官庁において活躍する法曹も増えることと思います。こうした21世紀に求められる法曹像を「地球市民法曹」ととらえ、多様なバックグラウンドをもった学生が各人のめざす「法曹像」を中軸に据えながら豊かな人間性と、鋭い人権感覚、幅広い教養と共に、グローバルな視点と高い専門性を身につけることができるような教育を行っています。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

立命館大学法科大学院は、豊かな人間性と国際的視野をもって活躍する地球市民法曹の養成をめざします。

そのために、1学年に法学未修者を20名程度、法学既修者を50名程度受け入れます。優秀な法学既修者を多く受け入れることによって、法学未修者にも学習面でよい刺激を与えることを期待しています。

入学者像を考えるにあたり、国際競争力を高める上で必要な法曹の育成を視野に入れ、法的紛争の国際化に対応できる人材を養成するため、英語等外国語能力に秀でた学生が入学できるように努めています。さらに、複雑化する現代社会に対応できる法曹を輩出するには、多様な背景を持った社会人や法学部以外の学部出身者、とりわけ理科学部出身者の入学も重要です。社会人と非法学部出身者を合わせて、毎年入学定員の3割程度は受け入れたいと考えています。

最後に何よりも大事なことは、法曹への意欲と使命感にあふれる人材に入学してもらうことです。

立命館大学法科大学院の入学試験においては、これらの点を重視します。

法科大学院についての詳細は [立命館 法科大学院](#) [検索](#)

プログラムの紹介

実務上生起する問題の合理的解決を念頭におきつつ、法の体系・理論を理解することが目的。主として研究者教員の指導のもと、憲法・行政法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法を中心に履修する。専門的な法知識の確実な習得を行う。

主として実務家教員が担当し、理論が実務にどう関わるかを学習する。3年次の実務基礎科目である3つの総合演習においては、研究者教員と実務家教員による共同指導のもとで、実体法と手続法とを統合した事例問題を検討し、現実の法領域横断的な問題、複合的問題を学習する。

法知識を批判的に検討・発展させていく創造的な思考力と、事実即した具体的な問題解決に必要な法的な分析・議論能力の育成、豊かな人間性の涵養・向上に寄与する科目群。

法律基本科目

実務基礎科目

基礎法学・隣接科目

BASICS

先端・展開科目 Speciality



※先端展開科目は8つの司法試験選択科目分野を中心とし、法曹としての専門性を身につける科目群を講義科目と演習科目をセットとして系統的に受講できるよう配置に努めています。

例) 税法務I(2単位) + 税法務II(2単位) + 税法務演習(4単位)

公共政策大学院 [公務研究科]

Graduate School of Public Policy



◎高い「志」と優れた専門能力、
タフな交渉力とコミュニケーション力をもって
「公共問題」にチャレンジできる人材を養成する。

立命館大学公共政策大学院公務研究科は、

現代社会が抱える多くの「公共問題」にチャレンジできる「考え、調べ、判断し、行動する」人材の養成を目的にして、

2007年4月に誕生しました。

この人材が身につける力を私たちは「政策力」と表現していますが、

それは、社会や人間の行動を、観察・分析・理解できる学問的な「基礎体力」と、自分で発見した問題を追求し、

解決策を提示する訓練、自分の意見や主張に説得性を持たせるコミュニケーション能力、

そして「公共問題」に向き合う「志」を吟味し高めることによって育まれていきます。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

公務研究科は、「公務」を自分の問題として受け止め、「政策力」を磨こうとする学生・市民、そしてこうして鍛錬された「政策力」によって、国・地方自治体、様々な国際機関やNPO、NGO、シンクタンク、独立行政法人、政党、さらには民間企業など、あらゆる分野で企画立案を担い、総合的な視点で課題を解決することで社会に貢献しようという学生・市民など、「公共問題」に向き合う「志」を持った人材を幅広く求めています。

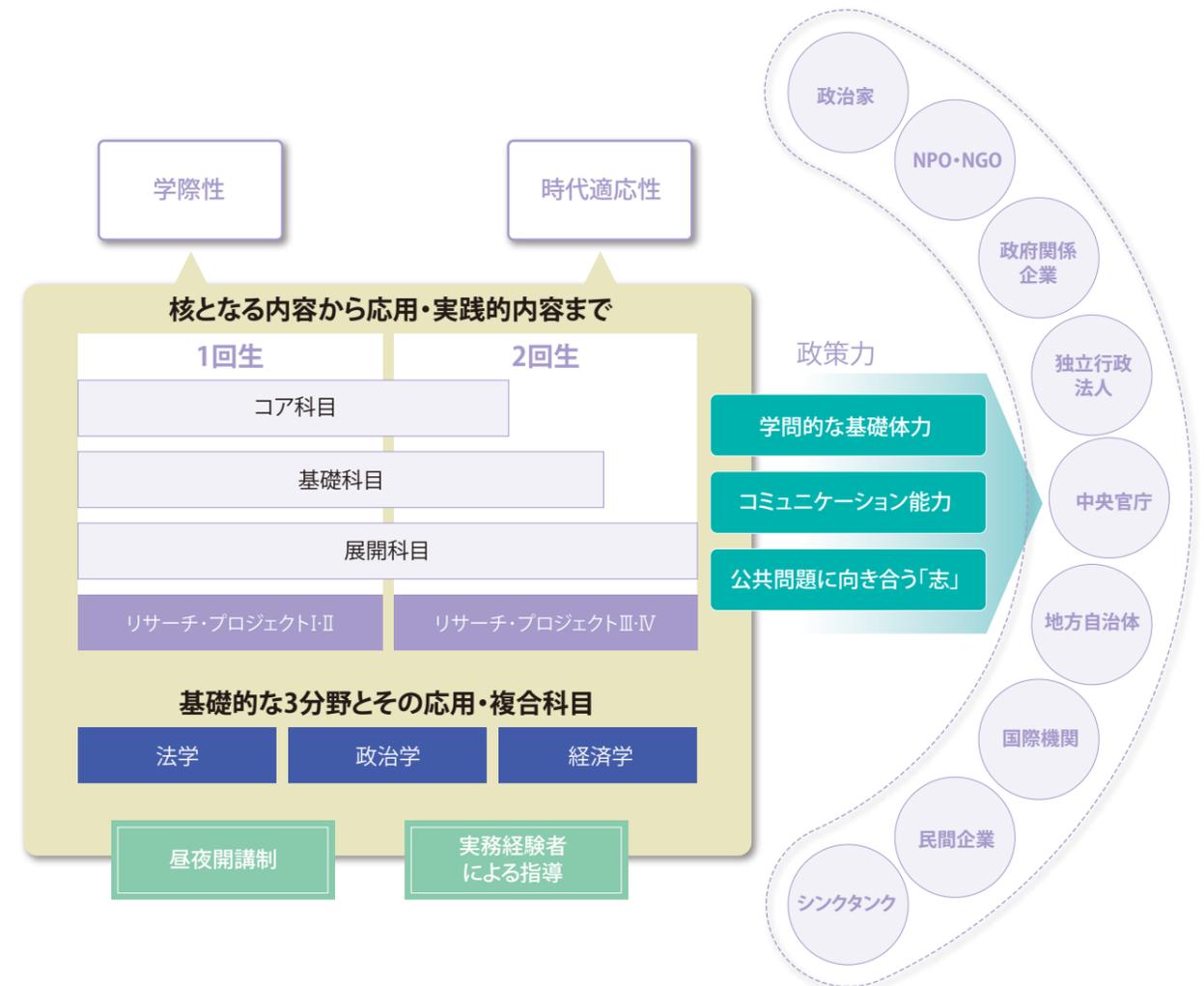
公共政策大学院についての詳細は [立命館 公共](#) [検索](#)

政策現場さながらに課題解決に取り組むリサーチ・プロジェクト

実務家を含めた教員による複数担当体制と1年生・2年生合同のリサーチ・プロジェクトは、公務研究科カリキュラムの最大の特徴です。院生は、6クラス開講されるリサーチ・プロジェクトのいずれかに必ず所属し、1、2年を通して4段階の履修ステップを踏みながら、実際の政策現場と同様の具体的な政策課題について調査・情報収集し、院生各々が政策の構想を発表し、議論によって練

り上げます。そこでは、タフな交渉力やコミュニケーション力が身につきます。また、毎年夏期休暇を利用して、クラス単位で様々な自治体を訪問し、現地での調査、研究活動で得た知識や情報、そこで発見した課題、等によって、自らの研究テーマを掘り下げる取り組みも行っています。

カリキュラム構造と修了後の進路



開講科目一覧 [2015年度開講科目]

科目区分	単位数	授業科目名
コア科目 [4単位以上]	各2単位	公共哲学、公共システム論、公務基礎論、フィールドワーク実践論
基礎科目 [4単位以上]	各2単位	憲法、法学基礎I(私法)、法学基礎II(公法)、政策過程論、行政学、地方自治論、経済学、財政学、公共政策文献講読(英語)I、公共政策文献講読(英語)II
展開科目 [4単位以上]	各2単位	政策法務論、労働法務論、公務員論、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計分析、政策評価論、ケース分析、参与調査法、地域共創学、日本経済論、GISと地域分析、インターンシップ、公共政策の課題I(行政)、公共政策の課題II(法律)、公共政策の課題III(経済)、政策ファイナンス
リサーチ・プロジェクト [8単位以上]	各4単位	リサーチ・プロジェクトI、リサーチ・プロジェクトII、リサーチ・プロジェクトIII、リサーチ・プロジェクトIV

修了要件:32単位以上

経営学研究科

Graduate School of Business Administration



◎実践的な企業経営教育で、新時代のビジネスリーダーを養成。

立命館大学大学院経営学研究科では、学部教育とも連動しつつ「経営学の高度な専門力量を持ったビジネスパーソンおよび研究者を養成する」という教学目標を掲げて企業経営の教育研究を進めてきました。1966年の研究科創設以来、大学教員・シンクタンク研究員などの研究者や、公認会計士などを多数輩出し、高い評価を得ています。

入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

経営学研究科は、人材育成目的を実現するために、前期課程および後期課程それぞれの入学時点において下記の能力を有する学生を求めます。

- 前期課程 1) 経営学の知識を基礎に、専門分野を入学後早い段階から決定し、専門的で高度な学術レベルの研究を進めていくことが可能な基礎的能力を有していること。また研究を進める上で必要な会計・統計的処理・語学を学習していくことのできる基礎的能力を有していること。
- 2) 国際的な視野で経営学を研究しうる能力を有していること。
- 後期課程 後期課程は、指導教員による研究指導と研究交流を通じて、自立した研究者として研究活動を行うに必要な高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を継続していく可能性を有していること。

経営学研究科についての詳細は [立命館 院 経営学](#) [検索](#)

博士課程前期課程

前期課程では、「技術経営・戦略」「組織・人事」「マーケティング」「国際ビジネス」「会計学」「ファイナンス」「デザイン・マネジメント」などの分野で、これからの企業経営の展開を視野に先進的で多面的な教育を行っています。カリキュラムは、論理的な思考力と定性的・定量的な調査能力をいっそう高めるために、基幹科目群と展開科目群を充実させるとともに、研究方法に関わる科目群と研究指導科目群の履修を重視した編成となっています。計画的学修により、経営学に関する理論の修得、情報収集・分析手法の獲得など総合的な学力を身につけます。併せて、外国文献研究または英語開講科目を受講することにより、英語文献レビューと英語での学修を進めます。経営学に関する高度な専門知識および、会計や統計的処理、語学などに関する高度な技能をもち、組織の中で適切に知識と技能を活用できる人材を育成します。併せて、社会の要請に応え、正義と倫理をもち、グローバル化する社会の中で組織のリーダーシップを発揮しうる人間を育成します。

前期課程の修了時点において学生が身につけるべき能力(教育目標)を下記のように定めています。

これらの能力の獲得は、研究科の規定する所定単位の修得と修士学位論文審査の合格により、その達成とみなします。



博士課程後期課程

後期課程では、指導教員のもと、前期課程における研究を継続して研究論文を執筆し、学会誌への掲載や、学会での報告などによって深化させ、高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を継続できる自立した研究者を育成します。

カリキュラム紹介

[2015年度] 前期課程

科目群	科目名	単位数	科目群	科目名	単位数	科目群	科目名	単位数
基幹科目	経営史I(アジア・日本)	2	研究方法科	統計学1	2	特殊講義	特殊講義I~X	各2
	競争戦略	2		統計学2	2		※「ケーススタディ研究の方法」「情報技術戦略」	
	マーケティング	2		研究方法論	2		「統計ソフトによる計量分析」など種々な内容で開講	
	生産マネジメント	2		外国文献研究I~IV	各1		研究指導科	特別演習1
	組織科学	2		アカデミックライティング	2	特別演習2		2
	経営財務	2	英語開講科	International Business I	2	Special Seminar 1		2
	会計学	2		International Business II	2	※英語基準留学生用		
ビジネス・エコノミクス	2	Finance		2	Special Seminar 2	2		
展開科目	アントレプレナーシップ	2		Marketing	2	※英語基準留学生用		
	金融・証券	2		International HRM	2	キャリア開発科	大学院コーオプ演習	2
	経営史II(欧米)	2		Environmental Management	2		インターンシップ演習	2
	ビジネス倫理	2	Business Economics	2	海外インターンシップ		2	
	人的資源管理	2	Special Lecture	2				
	財務会計	2	研究展開科	技術経営・戦略研究	2			
	企業会計	2		マーケティング研究	2			
研究展開科	技術経営・戦略研究	2		組織・人事研究	2			
	マーケティング研究	2		国際ビジネス研究	2			
	組織・人事研究	2		会計学研究	2			
	国際ビジネス研究	2		ファイナンス研究	2			
	会計学研究	2		デザイン・マネジメント研究	2			
	ファイナンス研究	2						
	デザイン・マネジメント研究	2						

政策科学研究科

Graduate School of Policy Science



◎人類の幸福に貢献する新しい社会科学のデザインをめざして。

実社会にダイレクトに関わり、政策の実践力を鍛え上げる。

政策科学は、新しい学問分野であり、学際的で実践的な研究領域です。政策科学研究科のカリキュラムの特徴である「リサーチ・プロジェクト」は専門の異なる複数の教員と研究動機やテーマの異なる多様な院生が協働して、実社会に起こる政策問題を、現場への応用と基礎理論の間を絶えず往復しつつ、解決へと向けていく政策のデザインについての知的空間を形成しようとするものです。政策科学という魅力的な分野で研鑽を積み研究科の伝統を作り上げる事業に参加されることを期待しています。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

■ 前期課程 政策科学研究科博士課程前期課程では、現代社会が直面する政策課題を正確に理解し、適切な解決策を創造するために不可欠な研究能力の育成と実務能力をステップアップさせるという教育目標・人材育成目標を掲げていることから、次のような学生の入学を望んでいます。

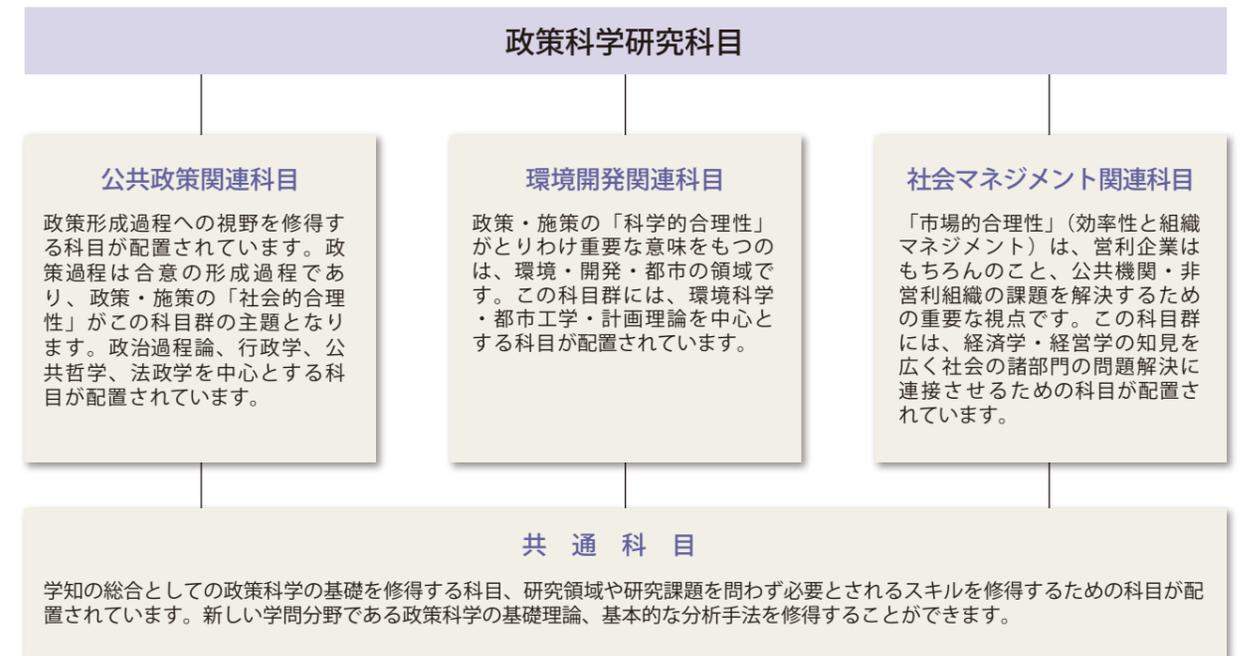
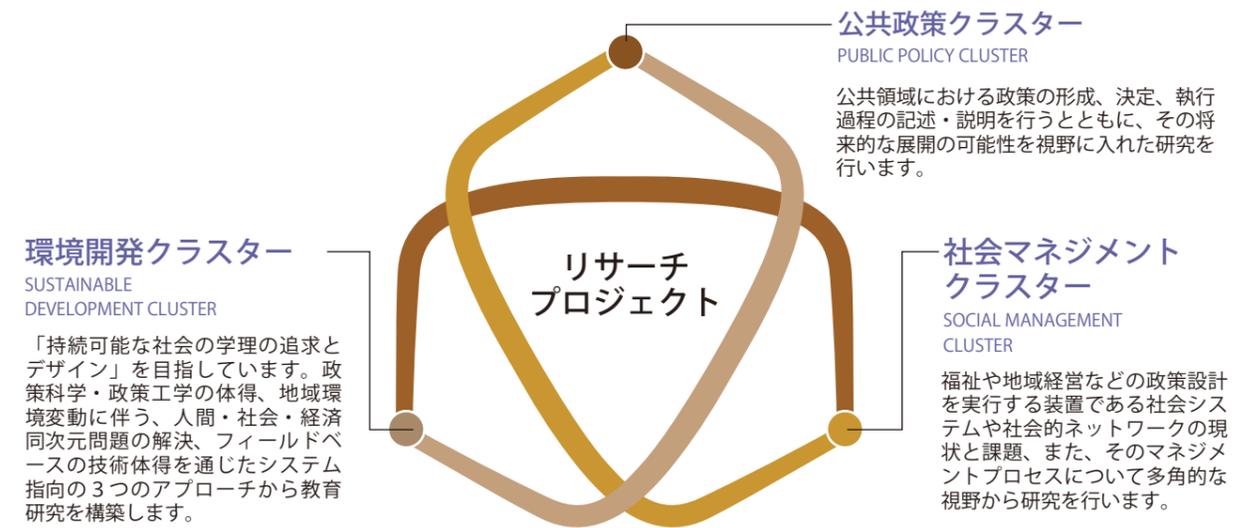
1. 社会の問題について、広く興味を有し、
2. それらの諸問題の解決策を追究することを欲し、
3. 多角的なアプローチにより、既存のディシプリンを刷新しうる柔軟な思考力と幅広い視野を持ち、
4. 論理的思考力に優れた諸君

■ 後期課程 政策科学研究科博士課程後期課程では、現代社会が直面する政策課題とその適切な解決策の創造に関する研究能力を育成するという教育目標・人材育成目標を掲げていることから、次のような学生の入学を望んでいます。

1. 社会の問題について、広く興味を有し、
2. 多角的なアプローチにより、既存のディシプリンを刷新しうる柔軟な思考力と幅広い視野を持ち、
3. それらの諸問題の解決策について深く研究する意思を有し、
4. 論理的思考力に優れた諸君

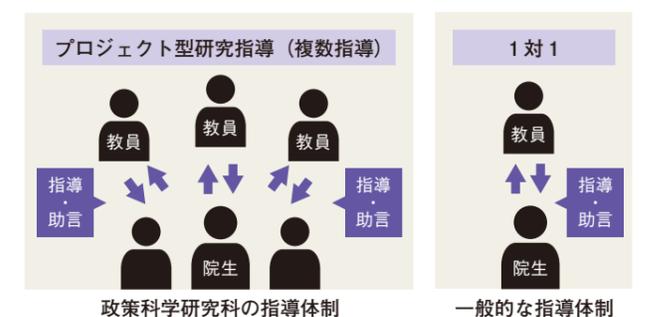
政策科学研究科についての詳細は [立命館院政策](#) [検索](#)

政策科学の特徴である3つの「リサーチ・プロジェクト」



政策課題に応じたプロジェクト型の研究指導体制

政策科学研究科は、領域横断的な教員の共同研究チームを組織し、それぞれのチームによる共同研究プロセスに院生が参加するプロジェクト型研究指導(PBL)の方法を採用しています。リサーチ・プロジェクトでは、一人の指導教員が一つの専門領域に特化した研究指導を行うのではなく、領域・テーマに共通の関心を持ちながらも、それぞれ異なる学問的背景を持つ複数の教員が院生の研究指導を行う集団的指導の方法を採用しています。



テクノロジー・マネジメント研究科

Graduate School of Technology Management



◎ 技術とビジネスを結び、イノベーションから価値を創出する。

経済のグローバル化が進行し、高度情報通信技術が世界的な規模で普及するなど社会環境が激変するなかで、我が国企業の国際競争力の低下や産業の空洞化、経済成長の鈍化、あるいは雇用の悪化などの課題が現出しています。これらの課題を克服し、経済の発展と持続的な成長を図るために、とりわけ技術を事業の中核とする企業においては、イノベーションの創造のみならずイノベーションからより一層の価値を創出することが求められています。技術経営(MOT:Management of Technology)とは、ごく典型的には技術を指向する企業や組織がイノベーションを創出して新事業を立ち上げ、新事業から収益を上げるとともに競争優位を獲得し、維持するためのマネジメントを指します。イノベーションや技術に関わる一連の実践的な活動を成功裏に遂行するには、文系と理系とを問わず、技術の価値を理解しビジネスに結びつける能力を持つ人材の育成が必要不可欠であり、ここに本研究科の存在意義があります。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

■ 博士課程前期課程

- (知識・理解)
・技術経営に関する理論、概念及び方法論を習得するために必要な学力を有する人。
- (思考・判断)
・研究開発、事業活動、知的資産活用などに関する事例分析能力を身につけたいと考える人。
・産業社会のニーズや、課題解決とイノベーション促進のために戦略、解決策等を考察するための基礎的な論理力、判断力を持つ人。
- (関心・意欲)
・他者と連携、協調して計画的に業務や研究等を実践したいという意欲を持つ人。
- (技能・表現・態度)
・技術や製品・サービスの事業化に必要な資料や情報を集め、科学的に探究し論理的に考察し、かつ表現するための基礎的な能力を持つ人。
・他者とコミュニケーションして計画的に研究等を実践し、表現する能力を身につけようとする目的意識を持つ人。

■ 博士課程後期課程

- (知識・理解)
・技術経営に関する高度な理論、概念及び方法論を習得するために必要な学力を有する人。
- (思考・判断)
・研究開発、事業活動、知的資産活用などにおける問題点や課題を見出し、かつ高度な問いを立て、新規性の高い発見をしたいと考える人。
・産業社会における課題解決とイノベーション促進のために高度な戦略、解決策を立案し、提案をしたいと考える人。

テクノロジー・マネジメント研究科についての詳細は [立命館 MOT](#) [検索](#)

技術経営(MOT:Management of Technology)について

技術経営(MOT:Management of Technology)とは技術を基盤とするとともにこれを活用する企業の経営のことです。したがって、技術経営学の対象は自動車産業やエレクトロニクス産業などの製造業はもとより、電気通信・電力・ガス・水道事業などに及んでいます。

MOTの実践事例

- 不確実性のマネジメント ●イノベーション・マネジメント
- 技術投資に関わる事業評価 ●研究開発戦略の立案
- 技術を核とした新事業の創出 ●MOT人材開発
- 技術マーケティング
- 技術戦略、事業戦略および知財戦略の総合



テクノロジー・マネジメント研究科の特長

1. 専門職大学院ではなく研究型大学院である

技術基盤企業の組織やマーケティング、戦略経営、知的財産などに加えて技術戦略、製品開発戦略など技術経営にかかわる主要な分野を網羅したカリキュラム。専門職大学院ではなく一般の大学院として、研究を重視しながらも高度の専門知識を持つ人材の輩出を目指しています。さらに、グローバルな活躍を目指す専門的研究者を育成するために博士課程後期課程を設置しています。

2. 理論と実践を修得できる

専任教員のほとんどが博士学位取得者かつ実務経験者なので、理論と実務の両方を高いレベルで修得できます。また、多くの企業と提携し、それぞれの企業が抱える課題を学生が解決する課題解決型長期企業実習「プラクティカム」や、企業からの受託研究・共同研究などを通して、現実のビジネス現場で発生している課題を検討し、実践的に解決できる人材の育成に努めています。

3. 多彩なバックグラウンドを持つ学生

学部からの進学者、留学生、現役の社会人、企業等の出身者など、学生のバックグラウンドは多様。理学や工学系の学生は科学技術の知識をさらに生かすべく、文理の枠を超えて、イノベーションからの価値創出とあわせて、技術にかかわる事業経営についての理論や手法などを学ぶことができます。多彩なバックグラウンドを持つ学生同士の交流が多くの気づきをもたらします。

カリキュラム紹介

[2016年度※予定]

〈博士課程前期課程〉

基礎科目	技術経営論Ⅰ 技術経営論Ⅱ 技術経営論Ⅲ
コア科目	戦略的技術開発論 技術経営組織論 技術基盤企業のマーケティング 会計・財務 ファイナンス戦略 技術基盤企業のヒューマンリソースマネジメント 技術・知財関連法 知財戦略論 価値創出マネジメント 技術基盤企業のプロジェクトマネジメント 技術経営研究方法論 新技術および新事業の提案・企画・評価演習
推奨科目	特殊講義(外書講読・英語ディスカッション) Technology management I Technology management II Technology management III Special Lecture プラクティカムⅠ プラクティカムⅡ

展開科目	研究開発戦略 技術・事業評価論 技術倫理 技術経営史 サービスイノベーション 技術基盤企業の戦略経営 国際知的財産 企業リスク・マネジメント 意思決定論 バリューチェーンマネジメント イノベーション戦略論 起業家戦略 ITマネジメント 管理会計概論 特殊講義(イノベーション・ダイナミクス) 先端科学技術とビジネス MOTキャリアデザイン 生産プロセスマネジメント 特殊講義(意思決定のためのデータ分析) 特殊講義(知財情報工学) 特殊講義(交渉戦略と実践) 技術系ベンチャー論 ヘルスケア・マネジメント 特殊講義
------	--

研究指導科目	技術経営演習Ⅰ・Ⅱ 技術経営研究Ⅰ・Ⅱ
〈博士課程後期課程〉	
選択科目	特殊研究(統計データ解析・英文ジャーナル) 特殊研究(定性分析) 特殊研究(定量分析) 特殊研究(研究方法の実践) 特殊研究(統計特論) 特殊研究(Literature Review) 特殊研究(Research Methods) 特殊研究(Empirical Methods) 特殊研究(Independent Study) 特殊研究(Structural Analysis of Research Papers) 特殊研究
研究指導科目	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ 特別研究Ⅴ 特別研究Ⅵ

* 科目区分の名称は仮称です

理論と実践の橋渡し

■ 実務経験を持たない学生

「プラクティカム(課題解決型長期企業実習)」
企業の現場の課題(事業計画、マーケティング、知的財産など)について、学生が指導教員と共に課題解決を行います。概ね3~6ヶ月間で研究成果を出し、実習先に報告と提案を行います。
(協力先)アビームコンサルティングなど約30社

■ 社会人学生

勤務先の業務課題を論文のテーマにできます。博士課程前期課程については、業務情報を開示することに問題がある場合は、学位論文の内容を非公表にすることも可能です。

経営大学院 [経営管理研究科]

Graduate School of Management



◎ 高度な戦略眼と実践力をもつ経営プロフェッショナルへ。

入学者受入方針〈アドミッション・ポリシー〉

学位授与方針の達成に向けて、本研究科は次のような入学者を期待しています。

1. 企業経営に関する問題意識を持つ者。
2. 経営学に関する基礎学力を有する者。
3. 外国語や簿記などの特定の能力や専門性の高い資格を有する者。
4. 修了後のキャリアを見据えて高い目的意識を持つ者。

学位授与方針〈ディプロマ・ポリシー〉

1. 人材育成目的

本研究科は、「ビジネスを創造するリーダーとして世界と日本の持続的発展に貢献する人材の養成に努める」ことを目的とし、これを具体化するため、下記のように、修了時に院生が修得しているべき努力(教育目標)を定めています。これらの能力は、プログラムごとに編成されたカリキュラムの各科目を履修し、本研究科が定める修了要件に達することにより修得されるとみなし、これをもって経営修士(専門職)の学位を授与します。

2. 教育目標

- (1) 企業経営の諸側面について広範な知識を身につけている
- (2) 企業経営に必要な思考力・分析力・判断力を身につけている。
- (3) グローバルな変化に関心をもちイノベーションを構想できる。
- (4) 正しい倫理観をもちリーダーシップを発揮できる。
- (5) 企業経営にかかわる調査・分析を行うことができる。
- (6) 高度なコミュニケーション能力を身につけている。

教育課程編成方針〈カリキュラム・ポリシー〉

1. 基本的な考え方

本研究科は、学位授与方針を達成するために2つのプログラムを設け、カリキュラムを編成しています。

- (1) マネジメントプログラム
主として社会人を対象にしています。「ビジネスを創造するリーダー」に必要な専門能力を総合的に磨くためのプログラムです。
- (2) キャリア形成プログラム
主として学部卒業生を対象にしています。「ビジネスを創造するリーダー」として活躍する人材となるための専門知識とスキルを修得し、マインドを醸成するためのプログラムです。

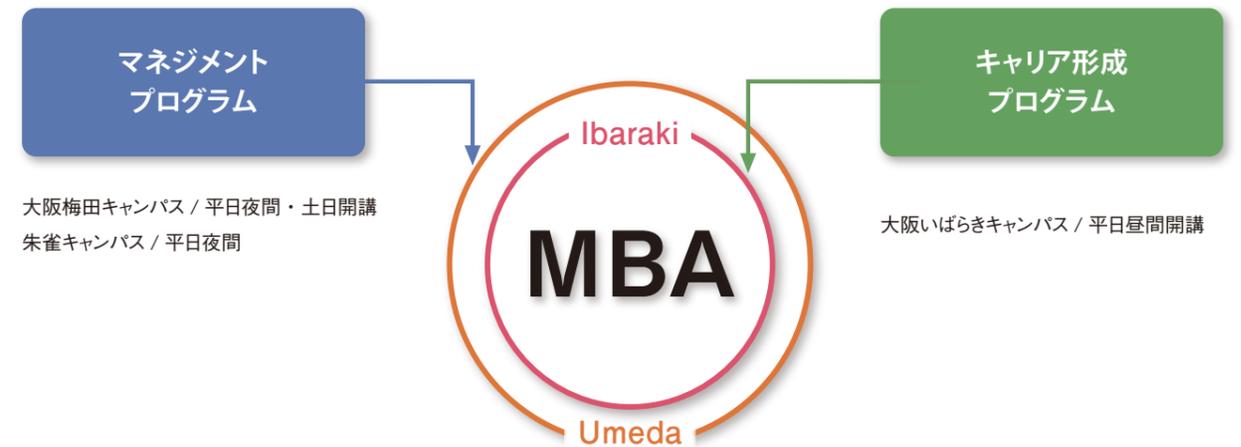
2. カリキュラムの枠組み

理論と実践の両面から学びを進めることが出来るよう、基礎から展開へ、さらに実習および演習へと、系統的な科目配置を行っています。

- (1) 基礎科目(選択必修) / 企業経営の基礎的素養を身に付けるための科目群です。
- (2) 展開科目(選択) / 企業経営の各分野の専門的な力量を形成する科目群です。
- (3) APU交流科目(選択) / 研究科が履修を認めた立命館アジア太平洋大学大学院の開講科目の修得単位を認定します。
- (4) 実習科目(選択) / インターンシップ、フィールドワークからなります。
- (5) 演習科目(登録必修) / 自らの関心やキャリアに応じた課題研究に取り組みます。

経営大学院についての詳細は [立命館 MBA](#) [検索](#)

対象者別のプログラム



ビジネスを体系的に理解できるカリキュラム

	基礎科目(選択必修科目14単位以上)		展開科目		実習科目	APU交流科目	演習科目	
	A群(10単位以上)	B群	企業経営の各分野の専門的な力量を形成する科目群です。		キャンパス外で学びます	APUで学びます	ゼミナールで学びます	
マネジメントプログラム	競争戦略	国際政治経済	【ビジネス科目群】		インターンシップ フィールドワーク	APU交流科目Ⅰ APU交流科目Ⅱ APU交流科目Ⅲ	課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ	
			戦略ユニット					特殊講義科目
	マーケティング	論理的思考とプレゼンテーション	経営政策	グローバル経営				戦略経営の実践
			イノベーション	ベンチャービジネス				戦略コンサルティング
	ファイナンス	企業倫理	組織ユニット					中国ビジネス
			人的資源管理	キャリア開発				営業戦略
	組織行動	企業倫理	コーチング	ネゴシエーション				オーナーシップ
			マーケティングユニット					パーソナルファイナンス
	アカウンティング	企業倫理	マーケティングリサーチ	消費者行動				組織変革
			商品開発	顧客戦略				コマツウェイ
企業分析	統計学	ファイナンスユニット		新時代の金融システムと人材創造				
		実践ファイナンスⅠ	実践ファイナンスⅡ	イノベーションの実践				
キャリア形成プログラム	競争戦略	国際政治経済	【ビジネス科目群】		インターンシップ フィールドワーク	APU交流科目Ⅰ APU交流科目Ⅱ APU交流科目Ⅲ	課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ	
			産業動態分析					特殊講義科目
	マーケティング	論理的思考とプレゼンテーション	マーケティングリサーチ	ビジネスプラン				戦略経営の実践
			商品開発	異文化マネジメント				戦略コンサルティング
	ファイナンス	企業倫理	異文化マネジメント	ネゴシエーション				中国ビジネス
			キャリア開発	アントレプレナーシップ				営業戦略
	組織行動	企業倫理	【会計ファイナンス科目群】					オーナーシップ
			租税法	財務諸表				パーソナルファイナンス
	アカウンティング	企業倫理	コーポレートガバナンス	管理会計				組織変革
			コーポレートガバナンス	管理会計				コマツウェイ
企業分析	統計学	監査論	コーポレートファイナンスⅠ	新時代の金融システムと人材創造				
		コーポレートファイナンスⅡ	投資戦略	イノベーションの実践				

修了に必要な修得単位46単位以上

ACCESS TO RITSUMEIKAN

(2015年3月現在)

衣笠キャンパスへの交通機関

JR・近鉄・地下鉄 京都駅 (烏丸中央口)	市バス (京都駅前)	50 約40分 快速205 約35分 205 約40分	立命館大学前(終点) 衣笠校前 徒歩10分
阪急 西院駅	JRバス (京都駅)	高雄・京北線 約30分	立命館大学前
阪急 大宮駅	市バス (西大路四条)	205 約20分	衣笠校前 徒歩10分
京阪 三条駅 地下鉄 三条京阪駅	京福 (西院駅)	快速202 快速205 約15分 嵐山本線・北野線 約25分 (帷子ノ辻乗換)	立命館大学前(終点) 等持院駅 徒歩6分
JR・地下鉄 二条駅	市バス (二条駅前)	55 約25分	立命館大学前(終点)
JR 円町駅	市バス (三条京阪前)	15 約40分 59 約40分	立命館大学前(終点) 立命館大学前
	市バス (二条駅前)	15 55 約20分	立命館大学前(終点)
	JRバス (二条駅前)	高雄・京北線 約15分	立命館大学前
	市バス (西ノ京町)	15 快速202 快速205 約10分 204 205 約5分	立命館大学前(終点) 衣笠校前 徒歩10分

びわこ・くさつキャンパス(BKC)への交通機関

京阪 中書島駅	京阪京都交通 (京阪中書島)	直行便 約35分 土日祝・学休日は運行しません。	立命館大学 びわこ・くさつキャンパス(BKC)
JR 大津駅	近江鉄道/バス (大津駅)	直行便 約25分 土日祝は運行しません。	
JR 大阪駅	JR 新快速約50分	立命館大学行き 立命館大学経由 飛鳥グリーンヒル行き 約20分	
JR・近鉄 京都駅	JR 新快速約20分		
JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄(京都駅経由) 約70分		
JR 三ノ宮駅	JR 新快速約70分		

朱雀キャンパスへの交通機関

JR・近鉄・地下鉄 京都駅	JRまたは地下鉄(烏丸御池乗換)	JR・地下鉄 二条駅	徒歩2分	立命館大学 朱雀キャンパス
阪急 梅田駅	阪急	阪急 大宮駅	徒歩10分	

大阪いばらきキャンパス(OIC)への交通機関

JR 大阪駅	JR 快速約11分	JR 茨木駅	徒歩約5分	立命館大学 大阪いばらきキャンパス(OIC)		
阪急 梅田駅	阪急 準急約18分	阪急 南茨木駅	徒歩約10分			
モノレール 千里中央駅	約9分	モノレール 宇野辺駅	徒歩約7分			
JR 京都駅	JR 新快速約12分	JR 高槻駅	快速約5分		JR 茨木駅	徒歩約5分
JR 南草津駅	JR 新快速約31分	JR 高槻駅	快速約5分		JR 茨木駅	徒歩約5分
JR 三ノ宮駅	JR 快速41分	JR 茨木駅	徒歩約5分			

大阪梅田キャンパス(大阪富国生命ビル5F・14F)への交通機関

JR 大阪駅	JR南口	徒歩5分	立命館大学 大阪梅田キャンパス
阪急・阪神 梅田駅	阪急中央改札口/阪神東改札口	徒歩5分/徒歩3分	
地下鉄御堂筋線 梅田駅	南改札口	徒歩3分	
地下鉄谷町線 東梅田駅	北東改札口	徒歩1分	

立命館大学 大学院

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 大学院課 Tel:075-465-8195

詳しい情報はホームページをご覧ください。 <http://www.ritsumei.ac.jp/gr/>

本案内に掲載されている内容については、変更または中止となる場合があります。